

富山縣(縣稅出納所)(何郡役所爲替方)
第 號 (本廳, 例) (郡役所, 例)
何(町)村 何某渡
金拾五圓 取扱主任印
三十日限此切符持參入(縣稅出納所)(當廳爲替方) =
金相渡ス可 (本廳, 例) (郡役所, 例)
富山縣出納吏官氏名印
明治 年 月 日

出納吏ノ印

乙第 號
何(町)村 何某渡
金拾五圓 取扱主任ノ印
此仕拂切符本日振出ス
(本廳, 例) (郡役所, 例)
富山縣(縣稅出納所)(何郡役所爲替方) 明治 年 月 日

(明治 年 月 日)

明治	年	第 號		
月	日	地方費(何々費)款		
		何々費(項)		
		何々代		
		何(町)村 何某渡	15	0 0 0

出納吏ノ印

富山縣(縣稅出納所)(何郡役所爲替方)
 (本廳ノ例) (郡役所ノ例)

甲第 號

何(町)村 何某渡

金拾五圓 取扱主任印

日附後三十日限此切符持參人(縣稅出納所)(當廳爲替方) =
 於現金相渡可也 (本廳ノ例) (郡役所ノ例)

富山縣出納吏官 氏名印

明治 年 月 日

出納吏ノ印

一 燒棄却物品ニ對シテハ第十一條第四項ノ調書
一 亡失物品ニ對シテハ第十一條第五項ノ證明書
一 生産ノ爲メ消耗物品ニ對シテハ其事由ヲ掲記シタル仕譯書

第五章

雜則

第二十五條 不用物品及修補ヲ加ヘ難キ毀損物品ハ三ヶ月又ハ六ヶ月毎ニ之ヲ取廻メ賣却等ノ處
分ヲ爲スヘキモノトス

但委任ヲ受ケタル物品出納命令者所管ニ屬スルモノハ其命令者ヨリ處分方何出ツヘシ

第二十六條 帳簿ノ様式其他ノ書式ハ別ニ之ヲ定ム

第二十七條 此規則ハ明治二十四年度ヨリ施行ス

訓令第五十三號 明治二十四年三月二十七日 郡市役所 警察署 縣立學校
明治二十四年三月訓令第四十四號照稅收納順序全第四十五號地方會計規則全第四十六號地方稅雜收
入收納規程全第四十七號物品會計規則ニ屬スル諸帳簿様式其他書式別冊ノ通相定ム

明治二十四年三月二十七日

訓令第五十三號別冊

(地方會計規則第二十條及第三十六條ノ返納告知書々式)

書 證 收 領		書 知 告 納 返	
第 何 號	何 年 度	第 何 號	何 年 度
所管本廳郡役所名		所管本廳郡役所名	
返納人氏名		返納人氏名	
<p>一金 何程</p> <p>但何々</p> <p>右何年何月何日限リ(縣稅出納所)(何爲替方)ニ返納スヘシ</p> <p>明治何年何月何日 仕拂命令者 官氏 名</p>			
<p>縣稅出納所 又ハ爲替方印</p> <p>縣稅出納所 又ハ爲替方印</p>			
<p>右領收候也</p> <p>但何々</p> <p>縣稅出納所 又ハ爲替方印</p>			

面 符 表 別	
第 何 號	何 年 度
所管本廳郡役所名	
返納人氏名	
<p>一金 何程</p> <p>但何々</p> <p>右相預リ候條此段及通知候也</p> <p>明治何年何月何日</p> <p>縣稅出納所 又ハ爲替方印</p>	
<p>縣稅出納所 又ハ爲替方印</p> <p>縣稅出納所 又ハ爲替方印</p>	
<p>又 縣稅出納所 又ハ爲替方印</p>	

別 符

	明治何年何月何日	縣稅出納所又ハ 其出張所	縣稅出納所又ハ 其出張所	明治何年何月何日	縣稅出納所又ハ其出張所へ納付
第何號	何年	度	取扱官署	校名	
地方稅 收入	何々(項)	何々(目)	何々(節)	出納吏官氏	名
一金 何程					

備考
縣稅出納所又ハ其出張所ニ於テ現金ノ納付ヲ受ケタルトキハ
領收ノ年月日ヲ記入シ式ノ如ク檢印スルモノトス

調 定 元 帳

(地方稅雜收入收納規程第九條ノ調定元帳書式)

收入期限	調定年月日			
明治何年何月何日	明治何年何月何日			
所屬年度	項	目	節	納人住所姓名
何々	何々	何々	何々	何官署(校)主管
雜收入出納吏官氏名				
地方稅雜收入				
一金 何程				
但何々(收入スヘキ金額ノ理由ヲ摘記スヘシ)				
何縣稅出納所又ハ其出張所ノ納濟				

告知書ヲ發行スル者ハ(調定)ノ二字ヲ告知書發行ノ五字ニ改ムヘシ

此年月日ハ雜收入出納吏ヨリ毎月收入額ノ通知ヲ受クルル所ニ記入ス但監査簿兼用ノ場合ニ於テハ出納吏ニ於テ記入ス

明治何年何月何日

(地方稅雜收入收納規程第十條ノ細別表書式)

明治何年何月中地方稅雜收入收入告知書ノ事由細別表

一金 何程

內譯

收入告知額	納期	日	科目 (節)ナキハ(目) ナキトキハ(項)	領収月日	姓
金 何程	何月何日	何	々	何月何日	何 姓
金 何程	何月何日	何	々	何月何日	何 姓
金 何程	何月何日	何	々	何月何日	何 姓
金 何程	何月何日	何	々	何月何日	何 姓
金 何程	何月何日	何	々	何月何日	何 姓
金 何程	何月何日	何	々	何月何日	何 姓

(備考) 納期日迄ニ納入セサルモノアルトキハ領収月日ノ欄へ朱書ヲ以テ事由ヲ記載スヘシ
右之通 候也

明治 年月 日

(物品會計規則第十一條第二項ノ書式)

明治 年月 日 何課長

物品出納命令官

物品出納吏

使用者又ハ
取扱主任

官(職) 姓

名 印

一 何品

專用(共用)備品消耗品請求書

何個

但何々(必用ノ)ニヨリ使用ヲ要スル分(亡失又ハ毀損ニヨリ補足トシテ使用スル分)

右御渡相成度候也

(物品會計規則第十一條第三項ノ書式)

(物品出納命令) 備品返納書

一 何品

何程

但專用或ハ共用ノ分何々(必用ノ)ニ依リ不用ニ屬スル分(何々(破損ノ)ニ依リ破損ニ付引換ヲ要スル分)

右返納候也

明治 年月 日

物品出納吏

使用者

官(職) 姓

名 印

官 氏 名 宛

(物品會計規則第十一條第四項ノ書式)

一 何品

何個

但不用ニ付賣却處分方何年何月何日許可濟何某へ拂下ケノ分

右拂出相成度候也

明治 年月 日

物品出納命令者

物品出納吏官 氏

名 印

官 氏 名 宛

(物品會計規則第十一條第四項ノ書式)

⑨ 物品出納命令
〔令者捺印〕

一 何品 何個

但何々ノ爲メ毀損ノ分

右ハ原形ニ復スル見込無之而已ナラス價直無之モノニ付燒(棄)却相成度候也

明治 年 月 日 主任官(職)氏 名 印

物品出納吏 官氏名宛

右何年何月何日處分濟 ⑩(物品出納吏ノ捺印)

(物品會計規則第十一條第五項ノ書式)

證明書

一 何品 何個

此元價金

右ハ專用(共用)トシテ使用中何々ニ據リ亡失毀損ニ係ル事 亡失(毀損)致候儀ハ前記事實ノ通和違無之此段證明候也

明治 年 月 日 (亡失又ハ毀損者)官(職)氏 名 印

物品出納命令者 官氏名宛

(朱書)右證明之趣認定ス

物品出納命令者⑪ 物品出納吏⑫ 調査主任⑬

(物品會計規則第十二條ノ書式)

消耗品領収證書

品 目	數 量	使 用 ノ 目 的
何々用紙	何 程	何月分何々(所要ノ目的ヲ)ニ使用スル分
何々	何 程	何々使用ノ分
何々	何 程	何々

右正ニ受取候也

明治 年 月 日 使用者 官(職)姓 名 印

物品出納吏 官氏名宛

(物品會計規則第十二條ノ書式)

物品使用證

一 何卓 何號ノ分 一脚

一 何椅子 自何號至何號 一脚

一 何品 [番號ヲ付シタルモノ] 何個

[ハ其番號ヲ記スヘシ]

右物品専用(共用)トシテ受取使用中正ニ保管致候也

明治 年 月 日 使用者 官(職)氏 名 印

物品出納吏

官氏名宛

(物品會計規則第十四條ノ精算書々式)

何月分消耗品受拂精算書

品目	前月ヨリ越高	本月仮受高	計	本月中使用高	差引残翌月へ越高
何々	何程	何程	何程	何程	何程
何々	○	何程	何程	何程	○

右之通相違無之候也

明治年月日

物品出納吏

官氏名宛

取扱主任 官氏

名

備 品

年月日	摘 要	單位ノ稱呼	受 入 部												
			越 高		受 入										
			數量	價 格	買入 數量	生産 數量	戻入 數量	保管ノ 轉 換	價 格						
何年		円	銭	厘				円	銭	厘					
何	何	前年度ヨリ繰越	脚	100	100	00	0	4	0	0	0	0	4	00	0
何	何	何々ニ付何某ヨリ買入	〃					10	0	0	0	0	10	00	0
何	何	不用ニ付何某ノ賣拂	〃					0	0	0	0	0	0	0	0
何	何	何某使用ノ分返納	〃					0	0	0	0	0	0	0	0
				100	100	00	0	14	0	0	0	0	14	00	0

何 々 品

小 計		拂 入 部					現 在 部					
數量	價 格	消耗 數量	賣拂 數量	亡失 數量	生産 ノ 數量	保管 ノ 換	價 格	使用中	在庫	計		
										數量	價 格	
何年							円	銭	厘			
104	104	00	0	0	2	0	0	0	0	2	00	0
10	10	00	0	0	0	0	0	0	0	82	30	112
0	0			5	0	0	0	0	0	82	25	107
0	0			0	0	0	0	0	0	77	30	107
114	114	00	0	7	0	0	0	0	0	77	30	107

明治何年度

備品臺帳

備考

第一 備品ノ各種類ニ據リ品目毎ニ登記スヘシ

消 耗 品

年月日	摘 要	單位 稱呼	受 入 部									
			越 高		受 入							
			數量	價 格	買入 數量	生産 數量	戻入 數量	何々	價 格			
何年			円	銭	厘				円	銭	厘	
何	何	前年度ヨリ繰越高	帖	50	5000	10	0	0	0	0	1000	
何	何	何々付ニ何某ヨリ買入				500	0	0	0	0	50000	
何	何	何々ニ付何某渡リ				0	0	0	0	0	0	
						0	0	0	0	0	0	
				50	5000	510	0	0	0	0	51000	

三六

何 々 品

小 計		拂 入 部				現 在 部		
數量	價 格	消 耗 數	賣 却 數	生 産 數	何 々	價 格	數 量	價 格
	円	銭	厘			円	銭	厘
60	6000	50	0	0	0	5000	10	1000
500	50000	0	0	0	0	0	510	51000
0	0	100	0	0	0	10000	410	41000
0	0	0	0	0	0	0	410	41000
560	56000	150	0	0	0	15000	410	41000

三五

明治何年度

消耗品出納簿

備考

第一 消耗品ノ各種類ニヨリ品目毎ニ登記スヘシ

第二 同種類ナリト雖モ目的ヲ異ニスルモノ(例ヘハ監獄ノ吏員用ニル八寸紙ト工業製造ノ八寸紙)ハ區分登記スヘシ

地方税(款)

何々(項) 何々(目) 何々(節)

年月日	摘要	調定済額		収入済額		収入未済額		備考		
		円	銭	厘	円	銭	厘	円	銭	厘
何年										
何	何	収入調定額	1,000	00	0			1,000	00	0
	"	領收証番号等ヨリ何號迄				450	00	0	550	00
	"	現金ニテ領收				350	00	0	200	00
	"	何某外何名何々ニヨリ缺損								50
		[每一ヶ月ノ計] 何月分合計	1,000	00	0	800	00	0		50
		(二ヶ月以后ノ例) 累計	1,000	00	0	800	00	0		50

明治何年度

收入簿

備考

- 第一 調定濟額ノ欄ハ總テ收入スヘキ額ノ確定シタルトキニ登記ス
- 第二 收入濟額ノ欄ハ縣稅出納所又ハ其出張所ヨリ納入ニ交付シタル領收證ヲ檢印シタルトキ及現金ニテ收入金ヲ領收シタルトキニ登記ス
- 第三 收入未濟額ノ欄ハ調定濟額ト收入濟額トノ差ヲ登記ス

明治何年度

仮渡簿

備考

第一 物品ノ仮渡ハ各種類ヲ區分シ品目毎ニ登記スヘシ

第二 同種類ノ物品ニシテ取扱者數名ニ涉ルトキハ各人別ニ區分

登記スヘシ

何 々 品

年月日	摘 要	記番號	數 量	元 價	顛 末
何年				円 銀 厘	
何	何々ノ爲ノ不用		3	3 60 0	
何	何々ニ付毀損		1	2 00 0	
何	何々ニ付何某ニ拂下ケ		1		公債代何置取 入ス

明治何年度

書留簿

備考

第一 不用物品又ハ毀損物品トモ各種類ニヨリ品目毎ニ登記スヘ

所管官署校名 雑収入出納吏氏名 (縣稅出納所)

年月日		摘要	収入		累計	
何年	何月何日		円	銭	円	銭
何	何	何年何月何日分収入	1,000	00 0	1,000	00 0
		何月分合計	1,000	00 0	1,000	00 0

所管官署校名 雑収入出納吏氏名 (縣稅出納所)

年月日		摘要	収入		累計	
何年	何月何日		円	銭	円	銭
何	何	何年何月何日分収入	500	00 0	500	00 0
		更正拂 (本廳へ送納セシキノ例)	100	00 0	400	00 0
		何月分合計	500	00 0		
		更正拂合計	100	00 0		

明治何年度

收入内訳簿

(地方税雑収入収納規程第九條ノ收入内訳書式)

10411

年月日	摘要	受		拂		残	
		円	銭	厘	円	銭	厘
何年							
何	出納吏某ヨリ受入 (賦税出)	500	00	0			500 00 0
何	徴税金書又ハ收入書知書納所又 何枚ニテ受入	200	00	0			700 00 0
何	本廳へ送納 (出張所ノ別)				700	00 0	0
何	何々金何某納ノ分現金ニテ受入 (出納吏)	100	00	0			
何	同上ノ分縣稅出納所又ハ出張所へ納付 (ノ別)				100	00 0	0

10411

明治何年度

現金出納簿

(縣稅收納順序第十五條及地方稅雜收入收納規程第九條ノ出納吏并縣稅出納所及其出張所現金出納簿書式) 三二四

四六四

明治何年度

收入内譯簿

(縣稅收納順序第十五條ノ縣稅出納所及其出張所收入内譯簿書式)

三七八

三七九

年月日	摘要	受		拂		残	
		円	銭	円	銭	円	銭
何年							
何	何 縣廳ヨリ豫備金トシテ受入	200	00 0			200	00 0
何	何 何町村何災ニ付救助金繰替			75	00 0	125	00 0
何	何					200	00 0
	合計	200	00 0	75	00 0		
		200	00 0	0			

明治何年度

備荒儲蓄豫備金出納簿

(地方會計規則第四十一條ノ出納簿書式)

中央出納吏

年月日	摘要	受	拂	殘
何年		円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘
四	一 送納書何枚 = 受入	6,000 00 0		
	” 第何號拂出		1,000 00 0	5,000 00 0

本廳出納吏

年月日	摘要	受	拂	殘
何年		円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘
四	一 第何號受入	1,000 00 0		
	” 第何號拂出何件		200 00 0	800 00 0

(地方會計規則第四十二條但書ノ内譯簿書式)

明 治 何 年 度

内 譯 簿

年月日	摘要	受	拂	残
何年		円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘
何 何	何月分月額中央出納吏ヨリ受入	1,000 00 0		
”	備品何々代何某渡		5 00 0	995 00 0
何 何	旅費概算何某渡		10 00 0	985 00 0
何 何	何々代何某渡		105 00 0	880 00 0
何 何	旅費概算返納金何某ヨリ受入	3 50 0		883 50 0
何 何	出納吏某ヨリ受入	1,000 00 0		
”	第何號拂出		5 00 0	995 00 0
何 何	第何號ヨリ第何號ヨリ拂出		115 00 0	880 00 0
何 何	何某ヨリ受入	3 50 0		883 50 0

(地方會計規則第三十九條第四十條及第四十二條ノ現金出納簿書式)

明治何年度

現金出納簿

何々(項)		何々(目)		何々(節)		何々(節)	
年月日	摘	要	仕 拂 像 額	仕 拂 命 額	像 算 残 額		
何年			円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	
	四	一	仕拂豫算額	1,000 00 0			
			” 仕拂命令第何號		25 00 0	975 00 0	

何々(項)		何々(目)		何々(節)		何々(節)	
年月日	摘	要	仕 拂 像 額	仕 拂 命 額	像 算 残 額		
何年			円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	円 錢 厘	
	四	一	仕拂豫算額	650 00 0		650 00 0	
		五	仕拂命令第何號		5 00 0	645 00 0	
			仕拂豫算増額 <small>(何物もリ 添用増)</small>	35 00 0		680 00 0	
			仕拂豫算減額			660 00 0	
				685 00 0	5 00 0		

明治何年度
何々費(款)支出簿

地方會計規則第二十二號ノ仕拂命令書式但用紙八寸桃色

第 號

明治 年 月 日

主任

仕拂命令官 (主務課長)	會計主任調査 (會計掌ル 首席郡書記)	仕拂命令番號	第 號	月 日	入出	月 日
		年度	款	項	目	節

一金

右仕拂之儀出納吏ノ御命令相成度候也

仕拂命令用紙

地方稅雜收入収納規程第一條ノ調定書々式

(例、應本)

知事 第何課長 第分掌

明治何年何月何日出 明治何年何月何日決裁 何課主任官姓名印

第九類 會計 三九五

何部署長

第四課長

第二分掌

明治何年何月何日出 明治何年何月何日決裁 主任官(職)姓 名印

収入命令者 會計ヲ掌ル首席郡書記(郡役所ノ例)

内勤警部 (警察署ノ例) 調査主任

首席書記 (縣立學校ノ例)

地方税雜収入調定書

郡(市)町(村)名

納人 何 某

一金 何程

但何々費(項)何々代(目)何々(節)何々云々

(備考) 本文調定書ニハ納期アルモノハ其納期日及収入スヘキ事由其他算出ヲ得ヘキ理

由詳記スルモノトス

内譯數多ニシテ事由ヲ要スルモノハ別紙ニ明細書ヲ添付スルモ妨ケナシ

右収入之儀御裁可相成度候也

内譯 (納人二名以上アルトキノ例)

郡(市)町(村)名

納人 何 某

金 何程

何々

金 何程
何々

縣稅収納順序第三條ノ書式

明治何年度第何期 地租割 歲入調定額報告表

町村名	稅目		地租額	稅割額	戶數	稅割額	計
	地	租					
合	計						

右報告候也

明治 年 月 日

郡(市)長 氏 名印

知 事 宛

備考

一市長ヨリ差出ス報告表ハ町村名、稅目ノ欄ヲ要セス

一金額ハ總テ數字ヲ以テ記入スヘシ以下全シ

一定期調定額中被稅物件ニ定率ヲ乘シ過不足ヲ生シキハ備考ニ其員額及理由ヲ詳記スヘシ

一同家ニ於テ同一ノ營業ヲ爲ス爲メ被稅物件ニ定率ヲ乘シ稅額ヲ得難キモノハ其事由ヲ備考ニ詳記スヘシ

縣稅收納順序第四條ノ書式

明治何年度何々歳入調定額増減報告表

町村名	稅目	調定額 報告番 號月日	調定額	増		減		事由
				金額	被稅物 件數	金額	被稅物 件數	
計								

右報告候也

明治 年 月 日
知 事 宛

郡(市)長 氏 名 印

備考

一市長ヨリ差出ス報告表及隨時ニ係ルモノハ町村名ノ欄ヲ要セス

縣稅收納順序第六條ノ書式

明治何年度何期分地方稅何年何月中收入計算表

稅目	調定額		收入額		缺損額	收入未済額
	前月迄累計	本月分	前月迄累計	本月分		
地租割						
營業稅						
商業稅						
卸賣仲買小賣雜商稅						
一等地						
二等地						
三等地						
計						

備考

(收入未済額ノ事由等必要ノ事項ヲ摘記スヘシ)

計

右報告候也
明治 年 月 日
知 事 宛
郡(市)長氏 名印

備考
一市長ヨリ差出ス報告表ニハ町村名ノ欄大字名ヲ記入スヘシ
一缺損ノ事由複雑ニシテ其事由欄内ニ事實ヲ詳記シ難キハ別ニ仕譯書ヲ添付スヘシ
一國稅連帶處分ノ未損失ニ歸セシモノアルトキハ金額事由等備考ニ詳記スヘシ

縣稅収納順序第十五條ノ書式

明治何年度第一期地租割

地方稅徵稅令書元帳

何郡(市)役所

第何號 第一期地租割

何町(村)

月 日	摘 要	調 定 額	減 額	計
何月何日	徵稅令書發付	(三千圓)主任者印以下全シ 郡役所割印以下全シ		三 千 圓
何月何日	何々ノ事故ニ依リ減額告知ス		百五拾圓〇	貳千八百五拾圓
何月何日	何々ノ事故ニ依リ徵稅令書發付	(貳百五拾圓〇)		三 千 百 圓
月 日				
月 日				

備考
一此用紙ハ郡ニ係ル地租割戸數割營業稅雜種稅(月稅ヲ)ニ用ヒ元帳ハ一種目毎ニ調製スヘシ但地租割戸數割ハ郡市連帶ト郡部トヲ區別スヘシ
一元帳ノ末尾ニ各町村ノ合計ヲ付スヘシ

第何號 姦 妓 稅 何町(村)

第九類 會計

備考	分月二	分月八	分月四
	分月一	分月九	分月五
	分月二	分月十	分月六
	分月三	分月一十	分月七
	分月	分月	分月
	分月	分月	分月
	分月	分月	分月

四〇八

第九類 會計

備考	分月二	分月八	分月四
	分月一	分月九	分月五
	分月二	分月十	分月六
	分月三	分月一十	分月七
	分月	分月	分月
	分月	分月	分月
	分月	分月	分月

四〇八

一此用紙ハ郡ニ係ル月税ヲ賦課スルモノ及漁業中鯨海豚魚ニ用ヒ一種目毎ニ元帳ヲ調製スヘシ
 但便宜ニ依リ一帳トシテ見出テ付スルモ妨ケナシ
 一毎月ノ税金ヲ賦課シタル後ハ各種目ノ末尾ニ合計ヲ付スヘシ

第 一 期	第 二 期	第 三 期	第 四 期	納 税 者
何月何日徴税令書ヲ發ス	書ヲ發ス	書ヲ發ス	書ヲ發ス	
第何號	第何號	第何號	第何號	大字何(町)村 何 誰
〔金何程〕○主任者ノ印以下 市役所割印以下全シ	金 第何號	金 第何號	金 第何號	大字何(町)村 何 誰
〔金何程〕○何々事故ニ依リ何月何日徴税令書ヲ發ス	金 第何號	金 第何號	金 第何號	大字何(町)村 何 誰
〔金何程〕○何々事故ニ依リ何月何日徴税令書ヲ發ス	金 第何號	金 第何號	金 第何號	大字何(町)村 何 誰
〔金何程〕○何々事故ニ依リ何月何日徴税令書ヲ發ス	金 第何號	金 第何號	金 第何號	大字何(町)村 何 誰

四〇九

金何程○		計 合	
備考 一此用紙ハ市ニ係ル地租割及戸數割ニ用ヒ元帳ハ區別調製スヘシ 一戸數割ヲ納ムルモノ年度中他ヘ轉出又ハ他ヨリ轉入アルトキハ納稅者氏名ノ左傍ニ何年何月何日何所ヨリ轉入又ハ轉出ト朱書シ主任者之ニ檢印スヘシ 一稅額異動ノ爲メ徵稅令書ヲ交換シタルトキ前ノ調定額ニ(消)印ヲ捺捺スヘシ			
前 期	後 期	納 稅 者	
何月何日徵稅令書ヲ發ス	月 日 徵稅令書ヲ發ス		
第何號 〔金何程○〕	金 第 號	大 字 何 (町) 村 何 誰	
金 第 號	金 第 號		

金何程○		計 合	
備考 一此用紙ハ市ニ係ル年稅ヲ賦課スルモノ及商業中營業會社ニ用ヒ元帳ハ一種目毎ニ調製スヘシ 但便宜ニ依リ一帳トシテ見出ヲ付スルモ妨ケナシ 一年度中轉出入又ハ創廢業アルトキハ納稅者氏名ノ左傍ニ何年何月何日何所ヨリ轉入又ハ何所ヘ轉出或ハ何年何月何日創業又ハ廢業ト朱書シ主任者之ニ檢印スヘシ			
第何號	何 誰	金 第 號	金 第 號
四 何月何日徵稅令書ヲ發ス 金何程○	五 何月何日徵稅令書ヲ發ス 金何程○ 何月何日滯納處分 ノ未缺損		
分 月	分 月	分 月	分 月
六 月 日 徵稅令書ヲ發ス 金	七 月 日 徵稅令書ヲ發ス 金		
分 月	分 月		

分 月 二 十	分 月 八	分 月 一 九	分 月 十 十
金 發 月 日 徵 稅 令 書	金 發 月 日 徵 稅 令 書	金 發 月 日 徵 稅 令 書	金 發 月 日 徵 稅 令 書
分 月 一	分 月 二	分 月 三	分 月 一 十
金 發 月 日 徵 稅 令 書	金 發 月 日 徵 稅 令 書	金 發 月 日 徵 稅 令 書	金 發 月 日 徵 稅 令 書

備考
 一此用紙ハ市ニ係ル月稅ヲ賦課スルモノニ用ヒ元帳ハ一種目毎ニ調製スヘシ但便宜ニ依リ一帳トシテ見出ヲ付スルモ妨ケナシ
 一年度中轉出入又ハ創廢業アルトキハ納稅者ノ冒頭ニ何年何月何日何所ヨリ轉入又ハ何所へ轉出或ハ何年何月何日創廢業又ハ廢業ト朱書シ主任者之ニ檢印スヘシ
 一毎月ノ稅金ヲ賦課シタル後ハ各種目ノ末尾ニ合算ヲ付スヘシ

前期卸賣仲買小賣雜商稅

月 日	番 號	調 定 額	摘 要	納 稅 者
何 月 何 日	第 何 號	(三千圓)主任者印以下全シ 郡役所制印以下全シ 内五百圓 差引貳千五百圓	徵稅令書ヲ發ス 何月何日何々事故ヨリ減額告知ス	何(町)村長 誰
何 月 何 日	第 何 號	(千圓)	徵稅令書ヲ發ス 何月何日滯納處分ノ末缺損	何(町)村長 誰
何 月 何 日	第 何 號	(千五百圓)	徵稅令書ヲ發ス	何(町)村長 誰
何 月 何 日	第 何 號	(貳千圓)市役所制印以下全シ (貳千五百圓)	徵稅令書ヲ發ス 何月何日何々事故ヨリ合書交換ス (市ニ係ル例)	大字何(町)村 何 誰

備考
 一此用紙ハ年稅ヲ課スルモノ及商業中營業會社漁業中季節稅ノ新規開業其他隨時徵收スヘキモノニ用ヒ元帳ハ各種期一種目毎ニ調製スヘシ但便宜ニ依リ一帳トシテ見出ヲ付スルモ妨ケナシ
 一市ニ係ル方ニシテ徵稅令書交換シタルトキ前ノ調定額ニ印ヲ捺捺スヘシ
 一元帳末尾ニ日々ノ合計ヲ付スヘシ

藝妓税		月日	番號	調定額	摘要	納稅者
何月何日	第何號			〔貳拾圓〕主任者印以下全シ 郡役所ノ割印以下全シ	徵稅令書ヲ發ス	何(町)村長 何 誰
何月何日	第何號			〔拾圓〕 〔丙五圓〕 差引五圓	徵稅令書ヲ發ス 何月何日何々事故ニ ヨリ減額告知ス	何(町)村長 何 誰
何月分合計				貳拾五圓		
何月何日	第何號			〔三拾圓〕	徵稅令書ヲ發ス	大字何(町)村 何 誰
何月分合計				三拾圓		

備考

一此用紙ハ月稅日稅ノ新規開業其他隨時徵収スヘキモノニ用ヒ元帳ハ一種目毎ニ調製スヘシ但便宜ニ依リ一帳トシテ見出シヲ付スルモ妨ケナシ

一市ニ係ル分ハ納稅者欄内其納人及大字名ヲ記入スヘシ
縣稅收納順序第十五條ノ書式

明治何年度第一期地租割

地方稅徵稅簿

何出納吏

第何號	第一期地租割	何(市)(町)村				
月日	摘要	調定額	減額	收入額	缺損額	納未過
何月何日	納額ノ通達ヲ受ク	三千元	主任者印以下全シ			未三千元
何月何日	領收證交付			五百圓		未貳千五百圓
何月何日	何々ニ依リ減額ノ通達ヲ受ク					未貳千三百五拾圓
何月何日	何々ニ依リ増額ノ通達ヲ受ク	貳百五拾圓				未貳千六百圓

何月何日	滯納處分ノ未 追徴	五拾圓〇	未 貳千五百五 拾圓
何月何日	領收証交付	貳千五百圓〇	未 五拾圓
何月何日	滯納處分ノ未 損失ノ通達ヲ 受ク		完 結

備考
一此用紙ハ地租割、戸數割、營業稅、雜種稅〔月稅ヲ
除ク〕及隨時徴収スヘキモノニ用ヒ帳簿ハ一種目
毎ニ調製スヘシ但便宜ニ依リ一帳トシテ見出ヲ付
スルモ妨ケナシト雖モ地租割戸數割ハ郡市
連帶ト郡部トヲ區別スヘシ
一帳簿ノ末尾ニ合計ヲ付スヘシ

第何號

何(市)(町)村

何月何日領收証交付	何月何日領收証交付	何月何日領收証交付	何月何日領收証交付
金何程〇 下全シ	金何程〇 内 金何程〇 差引金何程〇 内	金何程〇 外 金何程〇 合金何程〇 内	金何程〇 内
分 月 四	分 月 五	分 月 六	分 月 七
何月何日領收証交付	何月何日領收証交付	何月何日領收証交付	何月何日領收証交付

分 月 二 十	分 月 八	分 月 一	分 月 九	分 月 二	分 月 十	分 月 三	分 月 一 十
金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク	金 月日納額ノ通達 ヲ受ク

備考
一此用紙ハ月稅ヲ賦課スルモノ及漁業中鯨豚派漁ニ用ヒ一種目毎ニ帳簿ヲ調製スヘシ但便宜ニ
依リ一帳トシテ見出ヲ付スルモ妨ケナシ
一毎月ノ稅金ヲ帳簿ノ末尾ニ合計ヲ付スヘシ

縣稅收納順序第十九條ノ書式

明治何年度地方稅歲入調定額計算表

稅目	歲入額	被稅物件數
地租		
營業稅		
商業稅		
卸賣仲買小賣雜商		
一等地		
二等地		
三等地		
計		

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

知事 宛

郡(市)長氏 名印

縣稅収納順序第十九條ノ書式

明治何年度地方稅滯納處分月損失金計算表

稅目	不納金額	公賣追徴金	公賣處分不足金額	無財產被稅物件數	缺損金額	缺損金合計
地租						
營業稅						
商業稅						
卸賣仲買小賣雜商						
一等地						
二等地						
三等地						
計						

右之通相違無之候也

明治 年 月 日

知事 宛

郡(市)長氏 名印

一國稅連帶處分ノ末損失ニ歸セシモノアルトキハ金額事由等備考ニ詳記スヘシ

明治何年度物品出納計算表書面之通候也

明治何年何月何日

物品出納吏官氏名 印

富山縣知事宛

四二四

明治何年度

受入物品明細書

(物品會計規則第二十四條第一項ノ書式)

備考 目ハ出納計算書ニ掲載スル順序ヲ追フヘシ

四二四

品目	受 之 部							
	越 高		本 年 度 受 入				小	
	數量	價 格	購入數量	生 產 量	何々	價 格	數量	
單位 ノ價	円 錢 厘					円 錢 厘		
備 品								
並 卓 脚	100	160 00 0	4	0	0	6 40 0	104	
並 小 卓	50	40 00 0	2	0	0	1 60 0	52	
机	5	3 50 0	0	0	0	0	5	
簿 記 臺 臺	2	1 90 0	0	0	0	0	2	
小計		205 40 0				8 00 0		
消耗品								
美 濃 紙 帖	50	5 00 0	500	0	0	50 00 0	550	
半 紙	20	0 34 0	200	0	0	3 40 0	220	
松 薪 本	200	1 40 0	1,000	0	0	7 00 0	1,200	
石 炭 斤	1,000	2 60 0	10,000	0	0	26 00 0	11,000	
石 油 升	2	0 44 0	50	0	0	11 00 0	52	
小計		9 78 0				97 40 0		
合計		215 18 0				105 40 0		

計	拂 之 部					現 在 之 部		備 考
	消 耗	賣 却	亡 失	何々	價 格	數 量	價 格	
	數 量	數 量	數 量	數 量	円 錢 厘		円 錢 厘	
166 40 0	0	2	0	0	3 20 0	102	163 20 0	
41 60 0	0	1	0	0	0 80 0	51	40 80 0	
3 50 0	0	0	0	0	0	5	3 50 0	
1 90 0	0	0	0	0	0	2	1 90 0	
213 40 0					4 00 0		209 40 0	
55 00 0	500	0	0	0	50 00 0	50	5 00 0	
3 74 0	200	0	0	0	3 40 0	20	0 34 0	
8 40 0	1,100	0	0	0	7 70 0	100	0 70 0	
28 60 0	10,500	0	0	0	27 30 0	500	1 30 0	
11 44 0	51	0	0	0	1 22 0	1	0 22 0	
107 18 0					99 62 0		7 56 0	
320 58 0					103 62 0		216 96 0	

(物品會計規則第二十二條ノ物品計算表書式)

明治何年度

物品出納計算表

何年度地方稅雜收入
收入決算表

項	目	節	收入金額		欠損高		備	考
			圓	錢	圓	錢		
何々	何々	何々	500	00 0				
	何々	何々	167	00 0				
何々	何々	何々	0		1	50 0	何々ノ事由ニヨリ欠損	
合計			667	00 0	1	50 0		

書面之通相違無之候也

明治 年 月 日

雜收入出納吏官氏名 團

富山縣知事宛

(地方稅雜收入收納規程第十三條ノ決算表書式)

四三二

四三三

某年度 地方稅雜收入
調定額計算表

項	目	節	摘	要	金	額
					圓	錢
何々	何々	何々	調定	濟額	1,000	00 0
		何々	〃		5,000	00 0
何々	何々	何々	〃		0	
合計					6,000	00 0

書面之通相違無之候也

明治 年 月 日

收入命令者 官氏名 團

富山縣知事宛

(地方税雑収入收納規程第十二條ノ計算表書式)

何年度地方稅(款)
月計對照表

官 署 (校) 名	本 月 分		前月迄累計	合 計
	圓	錢 厘	圓	錢 厘
収 入 高	667	00 0	500	00 0
			1,167	00 0

書 面 之 通 相 違 無 之 候 也

明 治 年 月 日

縣稅出納所又ハ其出張所 印

(地方稅收納順序第十八條及地方稅雜收入收納規程第十一條ノ月計對照表書式)

四七〇

四七一

某年度地
所管(官署校名)何

科 目 節	調定額		収入
	前月迄累計	本月分	
	圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘
何々何々何々	0	700 00 0	0
何々	0	0	0
何々何々何々	0	0	0
合計	0	700 00 0	0

明治 年

雑収入出納吏

方税雑収入
年何月分収入計算表

濟額 本月分	収入未済額	備考	
		不納賦損額	
圓 錢 厘	圓 錢 厘	圓 錢 厘	
667 00 0	33 00 0	1 50 0	
0	0		
0	0		
667 00 0	33 00 0	1 50 0	

月 日

官 氏 名 團

備考

第一 備考欄内ニ不納賦損額ヲ示シ身代限
等ニ由リ収入處分終結シ已ニ調定済
トナリタル金額ニシテ全ク不納トナ
リ棄捐シタルモノヲ掲ケ
第二 前項不納賦損額ヲ収入未済額ヨリ扣
除スルニアラス

(地方稅雜收入收納規程第十條ノ收入計算表書式)

四六四

四六四

何々費(款)
科目更正計算表

科目	増額	減額	額	顛	未
何々(項)					
何々(目)					
何々(節)	15 00 0				何々=付何年何月何日計可 ノ上更正増
何々(節)		15 00 0			全上=付訂正減
	15 00 0	15 00 0			

書面之通相違無之候也

出納吏官氏名團
富山縣知事宛

明治何年度仕拂決算書面之通相違
無之候也

何々出納吏官氏名 印

知事宛

明治何年何月何日

明治何年度
何々費(款)
科目更正計算表

(地方會計規則第五十三條ノ科目更正計算表書式)

豫 算 高 計				摘 要
本年及豫算高	増	減	計	
円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	円 銭 厘	
				何々(項)
				何々(目)
85 00 0	25 00 0		110 00 0	何々(節)
15 00 0			15 00 0	何々(節)
100 00 0	25 00 0	0	125 00 0	
				何々(目)
530 00 0	0	30 00 0	500 00 0	何々(節)
90 00 0	60 00 0		150 00 0	何々(節)
620 00 0	60 00 0	30 00 0	650 00 0	
720 00 0	85 00 0	30 00 0	775 00 0	
				何々(項)
				何々(目)
80 00 0			80 00 0	何々(節)
120 00 0			120 00 0	何々(節)
200 00 0	0	0	200 00 0	
200 00 0	0	0	200 00 0	
920 00 0	85 00 0	30 00 0	975 00 0	項合計

241

精 算 高 返 納 高		備 考
円 銭 厘	円 銭 厘	
110 00 0	0	
15 00 0	0	
125 00 0	0	豫算 = 増加アルハ何々ノ事故 = 依 リ増額ヲ要セシモノアルニ由ル
500 00 0	0	
150 00 0	0	
650 00 0	0	豫算 = 減額アルハ何々ノ事故 = 依 リ減額セラレタルモノアルニ由ル
775 00 0	0	
80 00 0	0	
120 00 0	0	
200 00 0	0	
200 00 0	0	
975 00 0	0	残高返納ヒシキノアリトキハ其返 納ノ年月日記載スヘシ

242

(地方會計規則第五十二條ノ決算表書式)

明治何年度
何々費(款)
仕拂決算表

科 目	豫 算 高	流 用 増	流 用 減	計	本 月 精 算 高
何々(項)					
何々(目)					
何々(節)	50000.0	0	0	50000.0	200.00.0
何々(節)	35000.0	0	0	35000.0	50.00.0
目合計	85000.0	0	0	85000.0	250.00.0
何々(目)					
何々(節)	25000.0	5000.0	0	30000.0	170.00.0
何々(節)	45000.0	0	5000.0	40000.0	200.00.0
目合計	70000.0	5000.0	5000.0	70000.0	370.00.0
項合計	1,55000.0	5000.0	5000.0	1,55000.0	620.00.0

書 面 之 通

現 金 前 渡 精 算 未 済 高	概 算 渡 高	前 月 迄 精 算 迄 高	計	豫 算 残 高	備 考
10.00.0		100.00.0	310.00.0	190.00.0	
0	5.00.0	50.00.0	105.00.0	245.00.0	
10.00.0	5.00.0	150.00.0	415.00.0	435.00.0	
0	0	100.00.0	270.00.0	30.00.0	
0	0	0	200.00.0	200.00.0	
0	0	100.00.0	470.00.0	230.00.0	
10.00.0	5.00.0	250.00.0	885.00.0	665.00.0	

相 違 無 之 候 也
 明 治 年 月 日
 出 納 吏 官 氏 名 印
 富 山 縣 知 事 宛

明治何年度何年何月(自何月日至何月日)
仕拂計算書面之通相違無之候也

現金前渡ヲ受ケタル吏員ノ官氏名 印

知 事 宛

明治何年何月何日

明 治 何 年 度
何 々 費 (款)
何 月 分
仕 拂 計 算 表

(地方會計規則第四十八條ノ計算表書式)

元 受 高						摘 要
前月越高		本月領收高		計		
円	銭厘	円	銭厘	円	銭厘	
						何々(項)
						何々(目)
(二ヶ月以 后ノ例)	5 00 0	15 00 0		20 00 0		何々(節)
	0	5 00 0		5 00 0		何々(節)
	5 00 0	20 00 0		25 00 0		
						何々(項)
						何々(目)
	3 50 0	0		3 50 0		何々(節)
	10 00 0	10 00 0		20 00 0		何々(節)
	13 50 0	10 00 0		23 50 0		
	18 50 0	30 00 0		48 50 0		項合計

支出精算高		残 高		証憑 冊番 號	備 考
円	銭厘	円	銭厘		
17 00 0		3 00 0		1	[正當受取人ノ領收證書ヲ取纏 メ合冊トシ此番號ヲ付スヘシ]
5 00 0		0		2	
22 00 0		3 00 0			
0 50 0		3 00 0			
1 00 0		19 00 0			
1 50 0		22 00 0			
23 50 0		25 00 0			[残高ハ翌月へ繰越又ハ返納済 ノ事由ヲ詳記スヘシ]

訓令第二百三十三號 明治二十二年十月四日
本年三 本縣訓令第七十一號第五條ハ削除ス

郡役所

○俸給

訓令第九十四號 明治二十三年五月三十日

郡役所 警察署 警察分署
富山監獄 縣立學校 伏木測候所

地方稅ヲ以テ支辨スル俸給支給規則 一般規定アルモノヲ除ク 左之通改正シ本年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

俸給支給規則

明治二十三年
訓令第九十四號
第六號ヲ以テ改
正ス

第一條 月俸ハ毎月二十二日日給ハ末日ヲ以テ之ヲ支給シ休日ニ當ルトキハ順次繰上トス
但支給後日割返納セシムヘキモノアルトキハ直ニ之ヲ返納セシメ轉職退職及死亡ニ係ル者ノ俸給ハ其時々之ヲ支給ス

第二條 新クニ職務ヲ命ジタルトキ及他ヨリ轉職并ニ増俸減俸ノトキハ發令ノ翌日ヨリ日割ヲ以テ當月分ノ俸給ヲ算ス

第三條 他ヘ轉職シタルモノ、俸給ハ發令ノ當日マテ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第四條 退職又ハ死亡ニ係ル者ノ俸給ハ其當月分ノ全額ヲ支給ス

第五條 退職ノ者事務引繼又ハ殘務調理ノ爲メ特ニ命テ受ケ公務ニ從事スルトキハ其間尙ホ從前ノ俸給ヲ支給ス但翌月以降ニ涉リタル分ハ其結了ノ當日マテ日割ヲ以テ之ヲ支給ス

第六條 病氣ノ爲メ職務セサルコト九十日ヲ超ユルトキハ其俸給ヲ半減ス但公務ニ依リ傷疾ヲ受ケ又ハ傳染病ニ感染シタル爲メ職務セサルモノハ此限ニアラス

第七條 前條ノ外私事ノ故障ニ依リ職務セサルコト三十日ヲ超ユルトキハ其俸給ヲ半減ス

第八條 第六條第七條ノ事故連續スルトキハ左ノ方法ニ依リ其日數ヲ算定ス

一 病氣ノ爲メ職務セサル日數三十日ニ滿テ私事ノ故障連續スル場合ニ於テハ直ニ第七條ニ該當シ三十日未滿ナルトキハ前後相通シ三十日ニ滿ルヲ以テ第七條ニ該當スルモノトス
二 私事ノ故障ニ依リ職務セサル日數三十日ニ滿タルノ前ニ於テ病氣連續スル場合ニ於テハ前後相通シ九十日ニ滿ルヲ以テ第六條ニ該當スルモノトス
三 私事ノ故障已ニ三十日ヲ經過シ俸給ノ支給ヲ減シタル後ハ引續キ病氣ノ爲メ職務セサルモノト雖トモ尙ホ減俸ノ額ヲ支給ス

第九條 休暇日ハ前三條ノ日數ニ通算スト雖トモ其他優恩ニ依リ賜暇休養スルモノ又ハ忌引ノ爲メ職務セサル日數ハ前三條ノ日數ニ加ヘス

第十條 日給ヲ以テ雇入レタルモノ、給料ハ就職退職共總テ日割ヲ以テ計算シ第一條ノ規程ニ依リ之ヲ支給ス但休暇日又ハ優恩ニ依リ賜暇休養スル日數ヲ除クノ外病氣忌引其他私事ノ故障ニ依リ職務セサル間ハ其給料ヲ支給セス

第十一條 日割計算ノ法ハ其月ノ現日數ニ依リ厘位未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ之ヲ切捨トス

○旅費
告示第四十四號 明治二十三年四月四日

徵兵入營旅費給與及精算概則左ノ通相定ム

一 富山本金庫所在外ノ居住者ニ交付スル金員ハ富山本金庫ヲシテ遞送セシメ其領收證明紙ハ本廳會計主務官ヨリ直ニ本人ヘ送付スヘキニ依リ該用紙ニ署名捺印シテ之ヲ該金庫ニ差出スヘシ

二 富山市居住者ニ係ル金員ハ本廳ヨリ直ニ交付スルヲ以テ第一號書式ノ領收證書ヲ持參シ會

第九類 俸給、旅費

四六二

計主務官ヨリ受取ヘシ

一前項假受金ヲ爲シタルモノハ入營後直ニ第二號書式ニ依リ精算書差出スヘシ

一精算上若シ過渡返納金アルトキハ前項精算書ノ返納額ニ對シ返納告知書ヲ發付スヘキコ依リ其返納告知書ニ現金ヲ添ヘ該告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込ニ金庫ノ別符付領收證ヲ得直ニ領收證ノ檢印及別符ノ切離ヲ知事ニ請求シテ其證書ヲ受取ヘシ

一入營後若シ前項ノ手續爲シ難キモノハ當管下居住者ニ代理ヲ委託シ該手續ヲ爲サシムヘシ此場合ニ於テハ右代理者ノ住所族籍姓名ヲ届出ヘシ其届書ハ第二項ノ精算書ト共ニ差出スヘシ

(第一號)

徵兵入營旅費假受取證

一金 何程

但何師團(旅團)ニ入營旅費

右受取候也

年 月 日

會計主務官宛

居住地

姓

名印

(第二號) (假受金ニ對シ過不足アルトキノ例)

徵兵入營旅費精算書

一金 何程

精算不足金(過渡返納高)

外 金 何程

精算高

右ノ方へ
金 何程

何月何日假受高

内譯

金員	里	數	滞在日數	宿泊數	實費汽車	實費汽船	居住地	姓	名
	一里ノ旅費	一日ノ額	一泊ノ額						
何程	何里	何日	何拾錢	何拾錢	何程	何程	何郡村	何	某

但何々入營トシテ何月何日居町(村)出立(何地ヲ經テ)何月何日何地へ着(何日ヨリ何日マテ滞在或ハ宿泊)何月何日入營居町(村)ヨリ何地マテ陸路何里(居町)村ヨリ何地ヲ經テ何地マテ陸路何里何地間汽車何哩何地間汽船何海里何地ヨリ何地マテ陸路何里)

右精算相成度候也

年 月 日

縣知事宛

右 姓 名印

(假受金ニ對シ過不足ナキトキノ例)

徵兵入營旅費精算書

一金 何程

精算高

右ノ方へ

金 何程

何月何日假受高

内譯

(書式前文例ニ全シ)
右精算相成度候也

年 月 日

右 姓 名 印

縣知事宛

訓令 第百七號 明治二十二年四月四日

警察署 警察分署

明治二十一年四月二十日達第二百八十七號警部警部補持區内巡廻日當月額支給金額等級ハ二十二年度以降左ノ通改正ス

支給金額

一等 金五圓

二等 金四圓

三等 金三圓

四等 金貳圓七拾錢

五等 金貳圓三拾錢

六等 金壹圓八拾錢

七等 金壹圓四拾錢

八等 金壹圓

訓令 第五十一號

明治二十三年三月二十八日

警察署 警察分署

警部旅費請求及精算順序左ノ通相定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

第一條 警部旅費ハ第一號書式ニ依リ歸着後三日以内ニ請求スヘシ若シ出發前假受ヲ要スルトキハ第二號書式ニ依リ請求シ歸着後三日以内ニ第三號書式ノ精算書ヲ差出スヘシ但第五條ニ依リ認許ヲ得タルトキハ其認許ヲ得タル後三日以内ニ差出スヘシ

第二條 前條請求書又ハ精算書ハ總テ所轄警察署長ヲ經由スヘシ警察署長ニ於テ該書ヲ受ケタルキハ其旅行ノ事實ヲ調査シ第五號書式ノ添書ヲ付シ五日以内ニ警察本部ヲ經テ之ヲ差出スヘシ

第三條 第一條ノ金員ハ富山本金庫ヲシテ送付セシムルヲ以テ會計主務官ヨリ別ニ送付スル領收

月額旅費ハ第四號書式ニ依リ翌月二日限リ請求スヘシ

證明シテ之ヲ差出スヘシ

證明紙ニ署名捺印シ該金庫ヨリ受取ルヘシ

第四條 精算上過渡返納金アルトキハ返納告知書ヲ發付スルヲ以テ其返納告知書ニ現金ヲ添ヘ該告知書ニ指定シタル金庫ニ之ヲ拂込メ金庫ノ別符付領收証ヲ得直ニ領收證ノ捺印及別符ノ切離ヲ知事ニ請求スヘシ

精算上過不足ナキトキハ精算額確定後會計主務官ヨリ該精算書同付通知スヘキニ依リ式ノ如ク證明シテ之ヲ差出スヘシ

第五條 旅行ノ事實ニ因リ旅費ノ實費拂ヲナシタル若クハ迂路ヲ經テ旅行シ又ハ病氣滞在其他ノ事故ニヨリ公務外日數ヲ要シタルトキハ其確認シ得ヘキ書類ニ係ルモノハ受取人ノ署名又病氣ハ入馬立所ノ添ヘ第六號書式ニ依リ具申シ認許ヲ得タルトキハ該關係書類ト共ニ第一條ノ請求書又ハ精算書ニ添付差出スヘシ但認許ヲ受クヘキ具申書ハ所轄警察署長及警察本部ノ調査ヲ經テ差出スヘシ

實費拂ニ係ル受取人ノ證書ハ請求書又ハ精算書ニ添付スヘキト雖モ若シ急劇ニ際シ事實證明書ヲ得難キトキハ第七號書式ニ依リ算出ノ事由ヲ詳記シタル證明書ヲ以テ代用スルヲ得此場合ニ於テハ本條ニ依リ具申シ認許ヲ乞フヘシ

第六條 旅行中會計年度ノ甲乙兩年ニ相跨ルトキハ年度ノ分界ヲ以テ甲年ニ屬スル旅費ハ打切精算ヲ爲スヘシ其精算書差出期限ハ年度後二日迄トス

第七條 本順序ハ富山並婦負警察署在勤者ニ適用セス

第八條 本年訓令第十二號ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一號)

旅費請求書

一金何程		何警察署〔長〕何分署長		姓		名印	
御用柄		何々御用ニ付何地へ旅行					
發歸像定	何月何日出立	何月何日	歸			若	
區別員	數單	個	金員小計				
汽車	何哩	何	何			圓	
汽船	何海里	何	何			圓	
陸行	何里	何	何			圓	
日當	何	何拾	錢何			圓	
備考 何地何地間汽車何哩何地何地間海船何海里何地ヨリ何地マテ陸地何里トカ渾テ旅行ノ事實ヲ茲ニ掲クヘシ							
(第三號)							
(假受金ニ對シ過不足アルトキノ例)							
旅費精算書							
何警察署〔長〕何分署長							
警部〔補〕何等任 姓							
名印							

一金何程		精算不足金(過渡返納金)	
外金何程		精算高	
右ノ方へ		假受高	
金何程		何月何日受取	
内		、、、、、	
金何程		、、、、、	
内		、、、、、	
金何程		、、、、、	
差引過不足ナシ			
(茲ニ記載スヘキ精算高ニ對スル内譯書式ハ第一號ニ全ク)			
(假受金ニ對シ過不足ナキトキノ例)			
旅費精算書			
何警察署〔長〕何分署長			
警部〔補〕何等任 姓			
名印			

内譯

(茲ニ記載スヘキ精算高ニ對スル内譯書式ハ第一號ニ全シ)
(精算額確定後會計主務官ヨリ本書ヲ回付シ)
(タルトキハ其紙末ニ左ノ如ク記入スヘシ)
前書ノ通候也

年月日

會計主務官宛

旅費請求書

何警察署(長)何分署長

警部(補)何等任 姓

名印

何警察署長或ハ何警察署詰

内勤監督又ハ何分署長

官 姓

名印

一金何程

但何月分持區内巡回日當月額何等旅費

(病氣引等ニテ月額ニ異動ヲ生シ日割計算ヲ要ス)
(ルトキハ本文但書ニ依ラス左ノ如ク記スヘシ)

内譯

金	員	等	級	持區内巡回日當月額	日	割	數
何	程	何	等	何	程	何	十日

但何月何日ヨリ何日マテ何々ニ付何地へ旅行(或ハ何月何日ヨリ何日マテ病氣又ハ何々ニヨ

リ何月分日數何日間ヲ除ク)

(第五號)

記

一金何程

但管内(外)旅費或ハ何月分持區内巡回日當月額旅費

右別紙請求書ノ通相違無之ニ付及進達候也

請求書何通

年月日

縣知事宛

官 姓

名印

(第六號)

何々ノ儀ニ付上申

今般何々御用ニ付何地へ旅行候處(何々[上官ノ隨行トカ或ハ]ノ爲メ定額ノ車馬賃ヲ以テ旅費支辨難

致ニヨリ實費拂ヲ要セシニ付途中「何々ノ事故ニヨリ何地ヨリ何地マテ何里ノ迂路ヲ經」病氣或

ハ何々ノ爲メ何地ニ於テ何月何日ヨリ何日マテ何日間滞在候間(右ニ對スル旅費支給方特ニ御認

許相成度別紙受取證「何通」(證明書)或ハ何某[事故アリ滞在セシ]證明書(醫師診斷書)相添此段上

申候也

年月日

縣知事宛

官 姓

名印

(第七號)

(實費拂ニ係ル證書難得トキ證明ノ例)

證明書

一金何程

但何地ヨリ何地マテ人方車賃(何人換此里程(尤何々ニヨリ割増トモ)右ニ對スル正當受取人ノ證書ハ急行ノ用務ニシテ之ヲ徴スル邊アラサリシテ以テ該書無之候得共前書金高支拂相違無之候也

年月日

(乘馬、乘船、駕籠賃ノ類モ右ニ準スヘシ)

官 氏 名 印

○第十類

○衛生

●縣令第七十號 明治二十二年六月二十一日

明治二十年五月縣令第六十一號氷雪販賣取締規則第十一條第十二條左ノ通改正ス

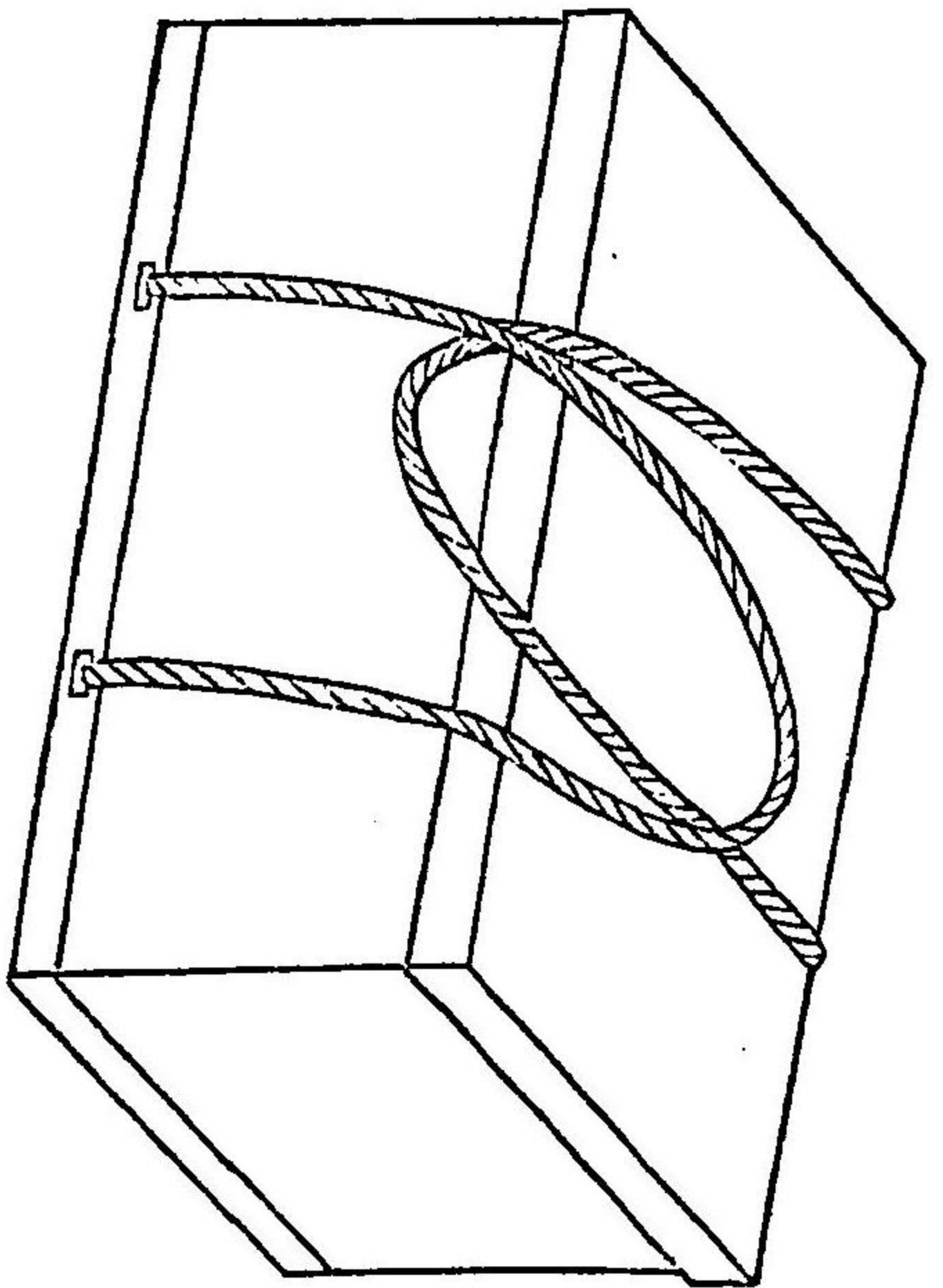
第十一條 販賣所ハ清潔ヲ旨トシ氷雪ニ塵埃ノ付着ヲ防ク爲メ硝子等ノ覆蓋アル箱ニ容レ置クヘシ

第十二條 行商者ハ氷雪ニ塵埃ノ付着ヲ防ク爲メ左ノ雛形ノ容器ヲ用フヘシ

但容器ハ郡市役所ノ檢印ヲ受クヘシ

寸法適宜木製

裏面ニ數個ノ小孔ヲ設ク



●縣令第八十七號 明治二十二年八月十七日
生石灰販賣手續左之通相定ム

二十二年八月
縣令第九十號
ヲ以テ條項中
改正

- 第一條 消毒用生石灰販賣手續
消毒用生石灰販賣セント欲スルモノハ其旨所轄郡市役所へ届出ヘシ
- 第二條 消毒用生石灰〔製造並出地〕ハ覆蓋アル桶或ハ箱等ニ入レ嚴重密閉シ大氣ノ侵入ヲ防クヘシ
- 第三條 消毒用生石灰ハ危險ノ恐レアルヲ以テ取扱上充分注意スヘシ
- 第四條 消毒用生石灰ヲ販賣セント欲スル者ハ其容器ニ製造所名及販賣人ノ住所氏名ヲ記載シ置クヘシ
- 第五條 前條小賣ノ容器ハ可成小量ノ器物ヲ用キ其卸賣ニ係ルモノト雖トモ容量ニ斗以上ヲ超過シタル者ヲ用ユヘカラス
- 第六條 消毒用生石灰販賣所ハ店頭ニ看板ヲ掲出スヘシ
●縣令第八十八號 明治二十二年八月二十三日
妊婦出産ノ胎衣及産穢物ハ墓地火葬場又ハ一定ノ場所ニ於テ埋没若クハ燒却スヘシ之レニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニ據リ處分セラルヘシ
●縣令第八十九號 明治二十二年八月二十三日
妊婦出産ノ胎衣其他ノ汚穢物埋没若クハ燒却ヲ營業セントスル者ハ其方法場所及手数料等ヲ詳記シ當廳へ届出認可ヲ受クヘシ
- 縣令 第五號 明治二十三年二月七日
明治二十二年法律第十號ニ據リ藥種商及製藥者取締規則左ノ通相定ム

藥種商及製藥者取締規則

- 第一條 藥種商及製藥者クラントスルモノハ第一號願書式ニ準據シ届出免許證札ヲ受クヘシ
- 第二條 藥種商及製藥者ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ
- 第三條 製藥者ハ新ニ藥品ヲ製造スル都度其藥名ヲ届出且毎年末ニ於テ第二號書式ニ準據シ其年製造セシ藥名數量及販賣高計算表ヲ製シ翌年一月三十一日限リ届出ヘシ
- 第四條 藥種商ニ於テ一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分ナル容器ニ製造者〔醫品製造者及社名〕若クハ外國藥品取引人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ
但毒藥劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スルコトヲ得ス
- 第五條 藥種商ニ於テ數容器ニ分ナル藥品又ハ製藥者自己ノ製藥ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ
但衛生試驗所ノ検査印紙ヲ貼付シタルモノハ此限ニアラス
- 第六條 藥種商及製藥者ニ於テ使用スル封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ラハシキモノト認ムルトキハ改訂ヲ命スルコトアルヘシ
- 第七條 藥種商及製藥者ハ第三號願書ノ標札ヲ店頭ニ掲クヘシ
- 第八條 左記ノ場合ニ於テハ三日以内ニ届出證札ノ返納書換訂正若クハ再渡ヲ乞フヘシ
一 廢業死亡
一 轉居代換改氏名
一 遺失毀損等
- 第九條 藥種商及製藥者ニ關スル願書等町村ハ郡役所ヲ經由シ當廳へ差出スヘシ
- 第十條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣及製造ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條ノ免許

二十三年三月
縣令第五號ヲ
以テ追加

鑑札ヲ受クルニ及ハスト 雖モ該條ニ準シ届出其他各條〔第四條ノ但書及〕ヲ遵守スヘシ

附則

第十一條 此規則ハ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス
第十二條 從來内務省製藥免許狀及本縣藥種商ノ免許鑑札ヲ受ケタルモノト雖モ本則施行ノ上ニ更ニ免許鑑札ヲ受シヘシ
第十三條 明治十八年六月甲第五十二號布達製藥免許手續及明治二十二年一月縣令第六號藥種商業取締規則ハ此規則施行ノ日ヨリ廢止ス

(第一號書式)

藥種商(製藥)營業願

今般藥種商(製藥)營業仕度候間免許鑑札御下渡相願候也

年月日

何縣何市何町 大字番地(寄留)族籍

知事宛

市(町村)長 何 某 印

(第二號書式)

藥品製造販賣高表

何	藥名	製造高	價額	賣捌高
々	何	十	拾	何
		磅	圓	何
				百
				何
				拾
				圓

右ハ明治何年中製造藥品計算表進達候也

年月日

何縣何市何町 大字番地(寄留)族籍

知事宛

市(町村)長 何 某 印

(第三號標札雛形)

三尺五寸

二尺

〔番號札〕

製藥種商 何 某

●縣令第九號 明治二十三年二月二十一日

明治二十二年一月縣令第四號及全年一月縣令第五號ハ本年二月二十八日限り廢止ス

●告示第五號 明治二十三年一月二十四日

縣下礪波郡石動町大字今石動町平野新右衛門儀阿片賣買特許廢業候條更ニ同所平野幸太郎ハ右阿片賣買特許鑑札下附シテリ

●告諭第二號 明治二十二年八月十六日

從來虎列刺病毒を撲滅するに石炭酸水、昇永水等諸種の劇薬品あきども其使用法煩しく且危険の恐れありしが近頃幾多の経験に依り生石灰は虎列刺病毒を撲滅するに十分の効力あり該吐瀉物及び吐瀉物の混入せる糞便等の消毒薬たることを認めたり而して此品は價も廉にして之を得るも易く此品を以て消毒したる糞便の肥料に供し至も危険なき有効の消毒薬ありと故に虎列刺病毒の消毒には重んじ此品を使用すべし左の製法及使用法等を示さん

- 一 石 灰 乳(生石灰 一合を水二升の割合にて溶したるもの)を虎列刺患者の吐瀉物等に於ける消毒薬として從來強石炭酸水、稀硫酸、昇永水、格魯兒石灰水等を用ひざる場合も換用するを得但生石灰の分量は水二十分の一を過るも効なし
- 一 石灰乳を製するより一合の生石灰(釜出しの儘)と二升の水とを混合し能く攪拌すべし
- 一 石灰乳を用ふる生石灰と水を澁ら忽ち水蒸氣を發するものを撰むべし
- 一 生石灰を貯蔵するに覆蓋ある箱又は桶を用ひ空氣の浸入せざる様嚴重に之を密封し置くべし
- 一 此品の成べく用ひ隨で製すべし製後 日を経たるものを用ふる時能く之を攪拌すべし
- 一 此品を以て吐瀉物糞便等を消毒するも其量の十分の一を投入し攪拌すべし
- 一 此品を以て消毒しざる糞便は一週間の後普通の糞便同様肥料と供することを得且其便所は消毒

後上閣するも妨げなし

家屋の消毒法は從來強硫酸蒸氣を用ひたりと雖も左の諸項を以て之に換用するも可なり

- 一 患者の居室及び其他消毒を必要と認むる室は強石炭酸水又は石灰乳を以て之を拭淨し疊建具は能く日光を曝し其室内に十分の大氣を通せしむべし
- 一 室内の器具物品は強石炭酸水又は石灰乳を澁らて拭淨し其消毒薬を用ひ難死のもの乾布にて丁寧に之を拭ふべし但し其乾布は用ひたる後消毒又は焼却をべき
- 然きども今や從來の難き消毒法より簡便なる消毒法に移るの大變化なれば此品使用方法を普く熟知せざるべからず等閑も消毒法の簡便も過ぎ却て消毒の効を失わざる様厚く注意すべし

告 諭 第三 號 明治二十二年八月十六日

炎天又ハ風日ハの時々市街地の街路に淨水を洒くべし旨の條で街路取締規則に相定有之候へども近頃炎天の打續くも往々之を等閑に心得官更の諭示するも兎角に之を怠るもの掛からず元來炎天に曝されたる土地は蒸氣を放ち風日には砂塵を飛散して人々の健康を害ふのみならず且澀水せざる時は道路を破り損ひ衛生上は素より道路の保存に就き其損害云ふべからず依て爾後は人々其筋の注意を俟たず炎天又は風日には必ず時々街路に淨水を洒くことを怠るべからず然れども杜撰

にも溝渠等の溜り水又は不潔の水を洒くべからず厚く注意の爲め此旨市街地の人々に告諭す

訓令第六十三號 明治二十二年五月二十四日 警察本部 警察署 警察分署

訓令第八十二號 明治二十二年六月二十一日 郡役所 市役所

水雪販賣取締規則第十二條ニ依り水雪容器ニ檢印願出候ハ器物ヲ調査シ適當ト認ムルモノニ限リ檢印ヲ與フヘシ

訓令第二百二十三號 明治二十二年八月十七日 市役所 町村役場

明治十九年六月甲第六十六號傳染病報告細則違反處虎列刺病ニ限リ至急ヲ要スル場合行之候ニ付自今警察署又ハ分署ニ報告スルト同時ニ本廳ヘモ報告スヘシ

訓令第二十二號 明治二十三年二月二十一日 郡役所 警察署 警察分署

自今歐米諸國ニ蔓延流行セル流行性感胃本邦ニ侵入ノ兆有之ニ付萬一發生候テハ容易ナラズ候條此際醫師ニ於テ流行性感胃ト診定セシキハ該患者ノ病況等其大要ヲ記シ速カニ所轄市役所町村役場若シハ警察分署ニ報告セシメ候様郡市役所ニ於テ諭示シ且醫師ヨリ受領セシ報告書ハ明治十九年六月甲第六十六號布達傳染病報告細則第三條第四條ノ手續ニ從ヒ本縣第二部衛生課ヘ送達スヘシ

訓令第二十三號 明治二十三年二月二十一日 郡役所 市役所

明治二十二年一月訓令第八號ハ本年二月二十八日限り廢止ス

訓令第五十八號 明治二十三年四月四日 郡役所 市役所

明治十九年三月丙第二百二十四號阿片拂下手續左ノ通改正候條阿片賣買特許營業人ニ示達スヘシ

明治二十三年三月九日訓令第三十二號ヲ以テ改正ス

藥用阿片拂下手續

第一條 藥用阿片拂下ハ阿片賣買特許鑑札ヲ受ケタルモノニ限ルモノトス

第二條 藥用阿片拂下ノ請求ハ毎年三月ヨリ四月マテ九月ヨリ十月マテノ二期コナスヘシ但臨時拂下ヲ請フモノハ格別トス

第三條 藥用阿片拂下ヲ請フトキハ知事宛ノ請求書ニ受取人ヲ差出スカ又ハ送達ヲ要スルトキハ其旨ヲ記入シ差出スモノトス

第四條 阿片賣買特許營業人ニ於テ阿片ヲ販賣スルトキハ内務省告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加ヘ販賣スルモノトス

第五條 拂下阿片代金ハ明治二十三年三月告示第三十六號ノ手續ニ從ヒ指定ノ金庫ニ納入スルモノトス

第六條 前條領收書ヲ收入官吏ヨリ受領セントキハ之カ寫ヲ當廳ニ差出シ納金済ノコトヲ証明スヘシ

但領收書ハ査閱ノ上返戻スヘシ

第七條 拂下阿片ハ當廳ニ於テ直チニ受取人ニ交附スルカ又ハ通運便ヲ以テ送達スルモノトス

第八條 拂下阿片ノ荷造及運搬費ハ本人ニ於テ支辨スルモノトス

第九條 拂下阿片ヲ受領セントキハ直ニ當廳物品會計官吏宛ノ受領證書ヲ差出スヘシ

第十條 阿片賣買特許營業人ハ左ノ様式ニ依リ明細表二通ヲ調製シ每一ケ年分〔會計〕四月十五日迄ニ差出スヘシ

明治何年度阿片受拂明細表

元 受 高

受入月日	瓶數	價	一瓶ノ價	賣捌高		買受人住所	姓	名
				瓶數	價			
何月何日				何圓何拾錢	何圓何拾錢	何國何市何町何番地	醫	某
何月何日				何圓何拾錢	何圓何拾錢	何國何市何町何番地	藥劑師	某
何月何日				何圓何拾錢	何圓何拾錢	何國何市何町何番地	何病院長	某
總計				何拾何圓	何拾何圓			何十何人
買捌月日	瓶數	價		瓶數	買受人數			
何月何日	何	何		何	何			
何月何日	何	何		何	何			
何月何日	何	何		何	何			
總計	何百何十個	何拾何圓		瓶數	買受人數			何百何十人
一夜以下賣捌高	價							
何	何拾	何圓		何百	何十			何百何十人

阿片何百何十瓶
前書ノ通相違無御座候也

受拂差引殘
明治何年三月現在高

年月日

富山縣知事宛

何國何市何町何番地
特許營業人 何

某印

訓令第七十二號 明治二十三年四月十八日 郡役所 市役所 町村役場
明治二十一年六月訓令第九十九號 町村衛生組合準則ハ自今市町村衛生組合準則ト稱シ條項中左ノ通
改正ス

市町村衛生組合準則

- 第一條 市町村內各自ノ健康ヲ保持増進セシムルカ爲メ衛生組合ヲ設クルモノトス
 - 第二條 衛生組合ハ市町村內ニ於テ十戸乃至二十戸ヲ以テ組合區畫トシ之ヲ設クルモノトス
但土地ノ情況ニ依リ數町村ヲ併ハセ又ハ其範圍ヲ伸縮スルヲ得
 - 第四條 組長ハ組合內ノ協議ヲ以テ之ヲ選定スルモノトス但職員アルトキハ十五日以内ニ後任者ヲ設クヘシ
 - 第五條 衛生組合ヲ定メ又ハ組長ヲ選定シタルトキハ組長ヨリ速カニ郡長〔町村ハ町村役場ニシテ之ヲ選定スルモノトス〕市長ニ申告スヘシ
 - 第八條 衛生組合ニハ規約ヲ設ク規約ハ組長組合內ノ者ト協議編成シ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ其改正ヲ要スルトキモ亦同シ
 - 第九條 十九 但指揮不當ト見認ムルトキハ郡市長又ハ町村長ニ申告スルコトヲ得
- 訓令第三百三十號 明治二十三年九月十二日 豫防本部 全支部
虎列刺豫防本部并ニ支部事務規程別冊ノ通相定ム

(別冊)

豫防本部并ニ支部事務規程

第一章 豫防本部

第一條 豫防本部ハ管内虎列刺病ノ豫防消毒ニ關スル一切ノ事務ヲ統轄ス

第二條 豫防本部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

委員

雇

第三條 部長ハ知事ノ命ヲ受ケ虎列刺病豫防消毒法ニ關スル一切ノ事務ヲ總理ス

第四條 部長ハ豫防消毒ニ從事スル職員ヲ指揮監督ス

第五條 部長ハ豫防支部長以下ノ職員ニ命令示達スルヲ得

第六條 部長事故アルトキハ上席委員其事務ヲ代理ス

第七條 委員ハ部長ノ命ヲ受ケ豫防消毒及事務ニ從事ス

第八條 事務取扱ノ手續ハ本廳一般ノ處務細則ニ依ル

第九條 部中ニ左ノ諸部ヲ置ク

豫防部

庶務部

第十條 豫防部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 實地豫防消毒ニ關スル事

一 避病室及隔離室ニ關スル事

- 一 交通遮斷及隔離等ニ關スル事
- 一 藥品ノ配劑及検査ニ關スル事
- 一 避病院及自宅治療患者衛生上ニ關スル事
- 一 飲料水及食品ノ良否ニ關スル調査ノ事
- 一 患者及死体排泄物等運搬ニ關スル事
- 一 死体埋葬及火葬場ノ利害ニ關スル事
- 一 豫防支部及全出張所設廢ニ關スル事
- 第十一條 庶務部ハ左ノ事務ヲ掌ル
- 一 諸文案起草ノ事
- 一 部印ヲ管守スル事
- 一 豫防消毒ニ關シ上申報告等ニ關スル事
- 一 豫防消毒ニ關スル願何届等ニ關スル事
- 一 職員ノ進退及其職務ニ關スル事
- 一 文書受付發送ニ關スル事
- 一 文書編集及淨書ニ關スル事
- 一 宿當直ニ關スル事
- 一 交通遮斷地内貧民救助ニ關スル事
- 一 各部ニ屬セサル雜務ニ關スル事
- 一 傳染病豫防費ノ豫算其他金錢一切ノ出納ニ關スル事
- 一 會計一般ノ調査ニ關スル事

- 一 避病院建築修繕及借上等ニ關スル事
- 一 豫防支部及豫防支部出張所修繕及借上等ニ關スル事
- 一 備品及消耗品ノ購入配賦ニ關スル事
- 一 雇人車馬等ニ關スル事

第二章 豫防支部

第一條 豫防支部ハ其部内虎列刺病ノ豫防消毒ニ關スル一切ノ事務ヲ管理ス

第二條 豫防支部ニ左ノ職員ヲ置ク

部長

豫防委員

豫防醫

雇

第三條 支部長ハ本部長ノ命ヲ受ケ虎列刺病豫防消毒心得及避病院事務規程ニ依リ郡内豫防消毒ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第四條 支部長ハ部内豫防ニ從事スル職員ヲ指揮監督ス

第五條 支部長ハ隨時部内ヲ巡視シ豫防事務ノ學否ヲ視察スヘシ

第六條 支部長事故アルトキハ上席委員其事務ヲ代理ス

第七條 豫防委員以下ハ支部長實地豫防消毒及部務ニ從事ス

第八條 事務取扱ノ手續ハ支部長ニ於テ便宜取設ク施行スルヲ得

第九條 部中左ノ諸掛ヲ置ク

豫防掛

會計掛

第十條 臨檢掛ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 豫防消毒法ヲ實施スル事

一 交通遮斷及隔離等ニ關スル事

一 避病室及隔離室等ニ關スル事

一 藥品配劑及検査ニ關スル事

一 患者ノ衛生上ニ關スル事

一 患者及死休排泄物等運搬ニ關スル事

一 死休埋葬及火葬場ノ利害ニ關スル事

一 豫防支部出張所設廢ニ關スル事

一 豫防委員以下ノ職務ニ關スル事

一 諸文接起草ノ事

一 部印ヲ管守スル事

一 豫防消毒等ニ關シ上中報告ノ事

一 豫防等ニ關スル願伺届等ニ關スル事

一 文書受付發送ノ事

一 文書編纂及淨書ノ事

一 宿當直ニ關スル事

一 交通遮斷地内貧民救助ニ關スル事

一 各掛ニ屬セサル雜務ニ關スル事

第十一條 會計掛ハ左ノ事務ヲ掌ル

- 一 經費豫算其他金銭一切ノ出納ニ關スル事
- 一 經費決算及會計諸表調製ノ事
- 一 避病院建築修繕及借上等ノ事
- 一 豫防支部出張所修繕及借上等ノ事
- 一 備品及消耗品ノ購入配賦ノ事
- 一 雇人車馬等ニ關スル事
- 一 小使看病人進退ニ關スル事

第三章 豫防支部出張所

第一條 豫防上時機ニ由リ支部内各地ニ臨時豫防支部出張所ヲ置ク

第二條 豫防支部出張所ハ其部局内豫防ニ關スル事務ヲ分掌ス

第三條 検査支部出張所ニ左ノ職員ヲ置ク

豫防委員

豫防醫

雇

第四條 前條職員ハ其部局内ノ檢部ニ關スル一切ノ事務ヲ擔理ス

第五條 豫防支部出張所職員ハ支部長ノ監督ニ屬シ實地豫防消毒ニ從事ス

第六條 事務取扱ノ手續ハ支部長ニ於テ便宜之ヲ設ケ施行スルヲ得

第四章 船舶検査所

第一條 船舶検査所ハ虎列刺病流行地ヨリ來ル船舶ノ検査ニ關スル一切ノ事務ヲ掌理ス

第二條 船舶検査所ニ左ノ職員ヲ置ク

船舶検査官

船舶検査醫

第三條 船舶検査官ハ知事又ハ豫防本部長ノ命ヲ受ケ明治十五年六月第三十一號布告船舶検査規則及明治十六年六月内務省丙第三號達船舶検査手續ニ依リ虎列刺病流行地ヨリ來ル船舶検査ニ關スル事務ヲ掌ル

第四條 船舶検査官ハ検査醫以下ヲ指揮監督ス

第五條 船舶検査醫ハ検査官ノ指揮ヲ受ケ船舶ノ検査及豫防消毒ニ從事ス

第六條 事務取扱ノ手續ハ検査官ニ於テ便宜之ヲ設ケ施行スルヲ得

第七條 豫防本部及支部ヲ開設スルトキハ總テ本部長及支部長ノ指揮監督ニ屬ス

●訓令第五百五十八號 明治二十三年十二月十九日

郡役所 警察署 警察分署

傳染病豫防消毒ノ儀ハ別冊傳染病豫防心得書ニ依リ施行スヘシ

但明治二十三年九月訓令第二百二十九號ハ自今廢止ス

市役所 町村役場

(別冊) 傳染病豫防心得書

總 則

第一條 市町村ニ於テハ衛生組合規約ニ據リ清潔法、衛生法其他傳染病豫防ノ事ヲ履行スヘシ

第二條 醫師傳染病者ヲ診斷シタルトキハ時ヲ移サス成規ノ通知ヲ爲スハ勿論此心得書各病ノ部ニ掲ケタル豫防方法ヲ病家ニ懇諭スヘシ

第三條 市町村ノ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ傳染病者ヲ診斷セル旨醫師ノ通知ニ接シタルトキ

第二十節 衛生

ハ速ニ病家ニ臨ミ病室、器具、被服及ヒ便所等ノ消毒ヲ施行スル等相當ノ處分ヲナスヘシ
 前項醫師ノ通知ニ接ヒサルモ傳染病ニ疑ハシキ患者アルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ醫師
 ナシテ之ヲ診斷セシメ其見込ニ從ヒ豫防消毒ノ處置ヲ爲スコト前項ノ如クスヘシ
 第四條 傳染病者ノ自宅治療ヲ爲セル家ハ衛生主務吏員又ハ警察官吏時々之ヲ巡視シテ豫防ノ方
 法ヲ守ルヤ否ニ注意シ又時宜ニ依リアハ人夫ヲシテ病室ニ汚染セルモノヲ取り集メシメ消毒法
 ナ施スヘシ

第五條 傳染病者治癒又ハ死亡シタルトキハ衛生主務吏員又ハ警察官吏ハ患者ノ身體若クハ死
 屍、看病人、患者ノ居室其他病室ニ汚染セル衣服、器具等ニ消毒法ヲ行フヘシ

第六條 總テ消毒法ノ實施ニ從事シタル吏員人夫等ハ其都度消毒法ヲ行ヒ又患者運搬器等モ使用
 シタル毎ニ消毒法ヲ施スヘシ

第七條 郡市長其所轄内ニ傳染病發生シタルトキハ其豫防法ヲ周到ナラシメ又有病地ノ病況ト豫
 防法實施ノ景況トヲ具シテ之ヲ知事ニ報告スヘシ

虎列刺

虎列刺ハ傳染病中ノ最モ猛惡ナルモノニシテ其蔓延流行スルニ當テハ兇暴慘虐至ラサルナキ
 一世人ノ普ク熟知スル所ナリ抑モ本病ノ病毒ハ一種ノ細菌ニシテ主トシテ患者ノ吐瀉物中ニ
 合ルカ故ニ本病ヲ豫防スルニハ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノ、消毒法ニ遺漏ナカラシムルハ
 勿論患者發生ノ最初即チ病室ノ未ダ散逸セサル以前ニ於テ十分消毒法ヲ行ヒ病室ヲ其一小局
 部ニ熄滅セサルヘカス

第一條 虎列刺患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシムヘシ

一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト

二 患者自宅ニ於テ消毒看病人履キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當
 ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト

四 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ豫メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石
 灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ吐瀉物ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆キ其吐瀉物ハ成
 ルヘシ之ヲ燒却スルコト

五 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一
 ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘシ能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆ツコト

六 患者ノ用ヒタル衣服器具其他吐瀉物ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ散亂セサル様之
 ナ取纏メ置キ消毒法ヲ行フコト

七 患者ノ身體、吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等小蟲ノ集マラサル様注意シ又病室内ニ
 蚊帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ吐瀉物ニ汚染セサル様注意スルコト

八 看病人ハ己レノ衣服ヲ吐瀉物ニ觸レサル様注意スルコト

九 吐瀉物及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更
 ニ淨水ニテ洗フコト

十 患者ノ居室ニ入レタル飲食物ハ患者ノ外決シテ飲食スヘカラサルコト

十一 患者ト居テ同フスル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ス煮沸セサレハ用ヒサルコト

第二條 虎列刺發生シタルトキハ衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サハルコト

二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムヲ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト

三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ改修スルコト

四 飲食物ハ成ルヘク蒸煮シテ用フルコト

五 總テ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケ且ツ其下痢患者ノ上レル便所ニハ生石灰、石灰乳又ハ石炭酸水ヲ澆クコト

第三條 虎列刺流行ノ際下痢若クハ吐瀉スル者アルトキハ其瀉下物吐出物コ石炭酸水、生石灰若クハ石灰乳ヲ澆キ醫師ノ診斷ヲ乞フヘシ

第四條 虎列刺發生ノ初ニ於テ其蔓延ヲ防キ得ヘキト認ムルトキハ左ノ標準ニ依リ交通遮斷ヲ施行スルコトアルヘシ

一 該患者アリタル家一軒立ニ係ルトキハ一家ヲ遮斷ス但一家内ト雖モ別棟等判然區別スルヲ得ヘキトキハ其部分ノミチ遮斷シ又極メテ病家ニ接近シタル家屋不潔狹隘ニシテ病毒ヲ傳播スルノ虞アルトキハ其狀況ニ依リ隣家ヲ遮斷スルコトアルヘシ

二 交通遮斷ヲ施行スルトキハ遮斷部分ノ區域ヲ明示シ醫師、掛吏員、人夫等職務上要用アル者ノ外他ト交通ヲ制止スルコト

三 交通遮斷施行中ノ家ニ於ケル日用品買入等ノ用務ハ近隣ノ人又ハ適宜ノ取扱人ヲ定メテ之ヲ辨セシムルコト

四 交通遮斷中ハ衛生主務吏員ニ於テ其区域内ノ清潔法等ニ注意スルハ勿論醫師ヲシテ區域内ノ各家ヲ巡診セシメ且豫防法ヲ諭示セシムルコト

五 患者治癒若クハ死亡シ又ハ患者ヲ避病院ニ隔離スル等遮斷區域内ノ患者全ク絶テヨリ五日間ヲ經過スルモ新患者ヲ發生セサルトキハ遮斷ヲ解除スルコト

六 遮斷區域内ノ患者絶ヘサルモ區域外ニ患者ヲ發生シ病毒己ニ他方ニ及ヒタリト認ムルトキハ速ニ遮斷ヲ解除スルコト

第五條 交通遮斷區域内若クハ會テ虎列刺ノ流行アリシ不潔ノ場所ニ於テハ左ノ方法ニ據リテ消毒的清潔法ヲ施行スヘシ

一 下水ニハ先ツ生石灰又ハ石灰乳ヲ投シテ能ク攪拌シ次ニ多量ノ水ヲ以テ洗濯シ十分ニ疏通セシムルコト

二 芥溜ノ塵芥ハ成ルヘク之ヲ燒却シ若シ燒却スルヲ得サル場合ニ於テハ石灰乳ヲ周テシ撒布シテ他ノ無害ノ場所ニ運搬シ其取除キタル跡ニ尙ホ生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 家屋ニハ左ノ方法ニ依リテ大掃除ヲ爲スコト

一 家什ヲ出シ塵ヲ揚ケ建具ヲ外シテ室内ヲ掃除シ其器具、疊、建具等ハ日光、空氣ニ曝スコト

二 床下ノ塵芥ヲ除去シ成ルヘク其跡ニ乾キタル土砂又ハ石灰ヲ撒布スルコト

三 衣服臥具ハ殊ニ能ク日光、空氣ニ曝シ其汚レタルモノハ洗濯スルコト

第六條 虎列刺流行ノ虞アルトキハ其町村又ハ都市ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損スル井戸ハ之ヲ修理スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト

二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト

三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト

第七條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、郡市町村吏員等及警察官吏衛生官吏等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ豫防消毒ノ事ヲ擔當セシム

腸室扶私

腸室扶私ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ虎列刺病毒ノ如ク不潔汚穢ノ土地ニ蕃殖滲浸シ

廣シ流行ノ勢ヲ成スモノナレハ其像防ノ方法ニ至テモ虎列刺ト略ホ其趣ヲ同フス抑モ本病ハ六種傳染病中最モ多キ疾病ニシテ各地方年々其患者ヲ發生シ流行ノ兆ヲ見サルコトナリ明治十三年傳染病像防規則發布以來十年間ノ患者三十一万餘死亡七万餘ノ多キニ及ヒ加フルニ流行時期ノ長キ病症經過ノ久シキ以テ公衆ノ安全幸福ヲ損害スルニ至テハ却テ虎列刺ヨリ甚キモノアラントス故ニ本病流行ノ兆アルニ當テハ速ニ十分ノ力ヲ盡シテ之ヲ撲滅シ併ヒ第二ノ流行ヲ豫防スルコトヲ怠ルヘカラス

- 第一條 腸室扶私又ハ之ニ疑似ヒル急性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ラシムヘシ
 - 一 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶ツコト
 - 二 患者自宅ニ於テ消毒看病行届キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
 - 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 四 患者ノ糞便ヲ取扱フニハ其人ヲ定メ置クコト
 - 五 患者用ノ便器ニハ蓋覆ヲ具ヘ且ツ滲漏ノ虞ナキモノヲ選ミ像メ之ニ適宜ノ石灰乳又ハ生石灰若クハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞便ヲ承ケタル後ハ更ニ前記ノ消毒藥ヲ澆キ所定ノ便所ニ移スコト
 - 六 患者ノ上リタル便所ニハ少ナクモ糞便量十分一ノ石灰乳、五十分一ノ生石灰若クハ五分一ノ石炭酸水ヲ澆キ(成ルヘシ能ク攪拌スヘシ)爾後患者ノ上ル毎ニ前記ノ消毒藥ヲ澆クコト
 - 七 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他看病人ノ衣服等總テ患者ノ糞便ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取總メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
 - 八 患者ノ身體糞便及ヒ之ニ汚染ヒルモノハ蚊、蠅等ノ集マラサル様注意シ又患者ノ居室ニ蚊

帳ヲ張ルトキハ其蚊帳ノ糞便ニ汚染セサル様注意スルコト

九 看病人ハ其衣服ヲ患者ノ糞便ニ觸レサル様注意シ且ツ其糞便及ヒ之ニ汚染セル物品ヲ取扱ヒタルトキハ直ニ石炭酸水又ハ昇永水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

十 患者ト居テ同スル者ハ特ニ飲食物ニ注意シ飲料水ハ必ズ煮沸ヒサレハ之ヲ用ヒサルコト

第二條 腸室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルハ勿論衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ

- 一 患者アル家ト成ルヘシ交通ヲ爲サ、ルコト
- 二 病家ノ井水ヲ他家ニ於テ共用セサルコト但己ムテ得サルトキハ煮沸シテ後之ヲ用フルコト
- 三 芥溜ヲ掃除シ病家ヨリ流ル、下水ノ溢流滲潤ヲ防キ且ツ下水溝ノ破損セルモノハ速ニ之ヲ改修スルコト
- 四 飲食物ハ成ルヘシ煮沸シテ之ヲ用フルコト
- 五 總テ急性病ニ罹リ又ハ下痢ヲ發シタル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト
- 第三條 腸室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ
 - 一 芥溜ヲ掃除シ下水ヲ浚渫シ破損セル井戸ハ之ヲ改修スル等一般ニ清潔法ヲ施行スルコト
 - 二 路傍便所及ヒ共同便所ニハ日々生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布スルコト
 - 三 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設テ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムヘシ

赤痢

赤痢ハ其病毒專ラ患者ノ瀉下物中ニ含リ之ヨリ傳染スルモノニシテ病性大ニ腸室扶私ト類似

スルモノナリ故ニ其豫防消毒ニ於テモ略ホ腸室扶私ト同一ノ方法ニ據リ而シテ流行時ニ於テハ瀉下物中ニ血液ヲ混セサル患者ト雖トモ本病者ト全様ニ取扱フヘシ
 抑本病ハ腸室扶私ト全ク頗ル慘毒ヲ逞クスルモノニシテ明治十三年以來十年間ノ患者數殆ト二十万ノ多キニ及ヒ殊ニ九州四國ノ諸縣ノ如キハ一年ニ流行ノ勢ヲナシ稍毒漸次ニ全國ニ浸淫セントス故ニ本病ノ年々發現スル地方ニ於テハ土地ノ清潔ヲ力メ殊ニ飲料水ニ注意シ下水ヲ浚滌シ發病時ニ當テハ撲滅ノ方法ニ十分ノ力ヲ盡シテ第二ノ流行ヲ防シ等總テ腸室扶私ニ於ケルカ如クシヌヘシ

實布埜里亞

實布埜里亞(格魯布)ハ多クハ未成年者殊ニ幼童嬰兒ヲ侵シ其幼稚ナル者ハ症狀最險惡ナリ抑モ本病ノ病毒ハ咽頭喉頭ノ如キ部分ニ含リテ患者ノ痰唾、鼻汁其他患者ノ使用セル衣服、玩具等ノ媒介ニ依リテ傳染ス故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ患者ト健康者殊ニ兒童トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ小學校、幼稚園等兒童ノ群集スル場所ハ往々本病傳播ノ中心トナルカ故ニ流行ノ兆アル場合ニ於テハ特ニ注意スルヲ緊要トス

第一條

- 一 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナルトキハ二週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
- 二 患者ノ居室ニハ無用ノ交通ヲ絶テ殊ニ兒童ハ一切立入ラシメサルコト
- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ宜クスルコト
- 四 看病人ハ他ノ兒童ト接近セサル様注意シ數々硼酸水又ハ鹽酸加里水等ヲ以テ含漱シ且ツ患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ鼻沫ボニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

- 五 患者ノ痰唾、鼻汁ヲ拭ヒタル紙片、布片等ハ蓋覆テ有スル容器ニ取纏メテ燒却スルコト又患者ノ含漱シタル藥水モ石炭酸水ヲ加ヘ消毒シタル後所定ノ便所ニ入ルコト
- 六 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澆キ所定ノ便所ニ移スコト
- 七 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト
- 八 患者ノ用ヒタル衣服、風呂、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ患者ノ痰唾、鼻汁ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト
- 九 患者恢復ニ趣クモ醫師ニ於テ全治ト認メ且ツ消毒法ヲ行ハサル間ハ他ノ兒童ト遊戯セシメサルコト

第二條

- 實布埜里亞(格魯布)發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルハ勿論衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ
- 一 患者アル家ニハ兒童ヲシテ交通セシメサルコト
 - 二 兒童ヲシテ感冒ニ罹ラシメサル様注意スルコト
 - 三 兒童ノ感冒ニ罹ル者アルトキハ速ニ醫師ノ治療ヲ受ケシムルコト
- 第三條 實布埜里亞(格魯布)患者頻々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ
- 一 醫師ヲシテ小學校、幼稚園ニ就キ其兒童ヲ診察セシムルコト
 - 二 小學校、幼稚園ノ教員ト協議シテ左ノ豫防法ヲ實行スルコト
 - 一 患者アル家ノ兒童ハ其患者全治又ハ死亡シタル後又他家ニ避ケタルトキハ其避ケタル日ヨリ三週間ヲ經ル迄登校、入園ヲ禁スルコト
 - 二 兒童中咳嗽或ハ發熱スル者アルトキハ速ニ退場セシメ且ツ醫師ノ治療ヲ受ケシムヘキ旨

ヲ其家人ニ勸告スルコト

- 三 生徒ノ缺席數日ニ及フモノアルトキハ其家ニ就テ缺席ノ理由ヲ問フコト
- 四 出頭時刻ヲ晚クシ退散時刻ヲ早クシ兒童ヲシテ朝暮寒冷ノ氣ニ觸ルシメサルコト
- 五 唱歌其他高聲ヲ發スル課業ヲ禁スルコト
- 六 教場ハ一層清潔ニ掃除シ休息時間ニハ窓戶ヲ開放シ十分ニ空氣ヲ流通セシムルコト
- 七 教場内處々ニ適宜ノ瓶、壺等ヲ備ヘテ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ生徒ノ痰、唾ハ此器中ニ吐カシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシメ又其病勢ニ依リテハ小學校、幼稚園ヲ閉鎖セシムヘシ

發疹室扶私

發疹室扶私ハ其病毒患者ノ身體ヨリ揮散シ傳染スルモノニシテ傳播ノ最モ迅疾ナルモノナリ其一タヒ流行ノ兆ヲ呈ハスヤ忽チ散漫傳播シ殊ニ貧民部落等群集雜居ノ場所ニ侵入スルトキハ其家屋ノ不潔狹隘ニシテ空氣ノ流通不長ナルヨリ傳染ノ力モ一層猛烈トナリ全部ノ人衆ヲ侵害スルニ至ル故ニ本病ノ蔓延ヲ豫防スルニハ速ニ患者ト健康者トヲ隔離スルヲ專要トス而シテ貧民部落ニ侵入セルトキハ避病院又ハ療養所ノ開設、貧民救濟法ノ普及ヲ怠ルヘカラス

第一條 發疹室扶私又ハ之ニ疑似セル熱性患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ

- 一 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
- 二 患者自宅ニ於テ消毒看病人屈キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院若クハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト

- 三 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
- 四 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト
- 五 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ患者ノ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ澆キ所定ノ便所ニ移スコト
- 六 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、飲食器其他總テ患者ノ身體ニ接觸セルモノ及看病人ノ衣服ハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

第二條 發疹室扶私發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルハ勿論衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ

- 一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲ササルコト
- 二 家屋ヲ清潔ニシ空氣ノ流通ニ注意スルコト
- 三 身體衣服ヲ清潔ニシ過度ノ努力、露臥、夜行等身體ヲ衰弱セシムル事項ヲ慎ムコト
- 四 總テ熱性病ニ罹ル者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 發疹室扶私患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ左ノ豫防法ヲ施行スヘシ

- 一 醫師ヲシテ貧民部落ヲ巡診セシムルコト
- 二 患者アル家ニ近接セル各家ニ大掃除ヲ爲サシムルコト

第四條 前條ノ場合ニ於テハ醫師、市町村吏員等ヲ以テ便宜豫防委員ヲ設ケ消毒ノ方法ヲ綿密ニシ且ツ其委員ヲシテ各家ニ豫防法ヲ諭示セシムヘシ

痘 瘡

痘瘡ノ病毒ハ痘漿、痘癩中ニ舍レルハ勿論患者ノ身體ヨリ發出スル蒸發氣中ニモ之ヲ含ミ傳染力ノ強烈ナル遙ニ他病ノ上ニ出ツ故ニ一枚ノ弊衣ヨリ病毒ヲ傳ヘテ遂ニ無數ノ人衆ヲ侵セ

ルカ如キハ往々觀ル所ナリトス抑モ痘瘡ニハ種痘ノ如キ万全ノ豫防法アリテ能ク其患害ヲ未然ニ防制シ得ヘシト雖モ再三之ヲ反復セサレハ其効全カラサルヲ以テ苟クモ本病發生スルトキハ健康者ニハ臨時種痘ヲ普及セシメ患者ニハ密ニ消毒法ヲ行ヒ二者相待テ十分ニ病毒ヲ撲滅センコトヲ要ス而シテ從來ノ經驗ニ據ルニ保母、看病人タル者親シク患者ヲ介抱シ痘毒ニ汚染セラル、モ其手足、衣服等ニ十分ノ消毒法ヲ行ハサルヨリ病毒ヲ傳播セシムルノ例甚ク多シ深ク戒ムヘキコト、ス

- 第一條 痘瘡又ハ之ニ疑似セル患者アル家ニ於テハ左ノ豫防法ヲ守ルヘシ
- 一 患者ノ外未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘ヲ爲スコト
 - 二 患者ノ外ニ兒童アルトキハ成ルヘク兒童ナキ他家ニ避ケシメ而シテ其兒童小學校、幼稚園ニ通フ者ナル時ハ三週間ヲ經ル迄登校入園ヲ差止メ其旨ヲ小學校、幼稚園ニ報告スルコト
 - 三 患者ハ居室ヲ定メ看病人ノ外他人ノ交通ヲ絶ツコト
 - 四 患者自宅ニ於テ消毒看病人履キ難キモノ及患者若クハ家人ノ望ニ依リテハ避病院或ハ適當ノ家屋ニ移シテ治療ヲ受ケシムルコト
 - 五 患者ノ居室ハ常ニ掃除シテ清潔ナラシメ斷ヘス空氣ノ流通ヲ良クスルコト
 - 六 患者ノ居室ニハ蓋覆ヲ有スル壺等ヲ備ヘテ汚物ノ容器ト爲シ像メ之ニ石炭酸水ヲ入レ置キ痘漿ヲ拭ヒタル布片、紙片又ハ落布及ヒ居室内ノ塵埃等ハ必ス此器中ニ入ル、コト但器中ノ汚物、糞、鉋屑等ノ燃料ヲ加ヘ石炭油ヲ灌キテ之ヲ燒却スルコト
 - 七 看病人患者ノ居室ヲ出ツルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ手ヲ洗ヒ更ニ淨水ニテ洗フコト

八 便器ニハ石炭酸水ヲ入レ置キ糞尿ヲ承ケタル後ハ更ニ石炭酸水ヲ灌キ所定ノ便所ニ移スコト

九 患者ノ玩具、飲食器等ハ決シテ他ノ兒童ト共用セシメサルコト

十 患者ノ用ヒタル衣服、臥具、敷物、玩具、飲食器、看病人ノ衣服其他總テ痘漿ニ汚染シ又ハ汚染シタル疑アルモノハ之ヲ取纏メ適當ノ容器ニ入レ置キ消毒法ヲ行フコト

十一 患者ノ身體及ヒ痘漿ニ汚染セルモノニ蚊、蠅等ノ聚マラサル様ニ防シコト

十二 患者ノ痘瘡落痂スルモ醫師ニ於テ全治ト認メ入浴換衣シタル後ニ非サレハ他ノ兒童ニ交ハリ又ハ混浴ノ風呂屋ニ入浴セシムヘカラス

第二條 痘瘡發生シタルトキハ病家近傍ノ各家共同シテ左ノ豫防法ヲ守ルヘ勿論衛生組合長ニ於テ其豫防法ヲ各家ニ告知スヘシ

一 患者アル家ト成ルヘク交通ヲ爲サ、ルコト

二 未痘兒ハ勿論再三種ヲ了レルモ種痘後五年以上ヲ經タル者ハ臨時ニ種痘スルコト

三 痘瘡ニ疑ハシキ患者ハ速ニ醫師ノ治療ヲ受クルコト

第三條 痘瘡患者續々發生スルトキハ其市町村ニ於テハ消毒ノ施行ニ一層ノ注意ヲ加ヘ且種痘規則第三條ニ依リ臨時ニ種痘ヲ普及セシムヘシ

○消毒方

傳染病毒ハ其本體已ニ詳ナルアリ未ダ詳ナラサルアリト雖モ要スルニ生々蓄殖ノ機能ヲ具ヘタル一種微細ノ有機體ナルハ疑ヲ容レズ此有機體タル各病狀レモ其性状ヲ異ニシ傳染ノ景況一ナラス例ヘハ虎列刺病毒ノ如キハ專ラ患者ノ吐瀉物中ニ舍トリテ吐瀉物及ヒ之ニ汚染セルモノヨリ傳染シ發疹室扶私病毒ノ如キハ患者ノ身體及ヒ之ニ接觸セルモノ其他病室内ノ空氣ヨリ傳染

シ痘瘡病毒ノ如キハ患者ノ身體、病室内ノ空氣ヨリモ傳染シ痘癩、痘瘰及ヒ之ニ汚染セルモノヨ
リモ傳染ス故ニ消毒法ノ實施ニ從事スル者ハ各病ノ病性ヲ知悉シ此心得書ニ據リテ火力、蒸熱、
藥劑等總テ消毒ノ効力ヲ有スルモノ、効用、用法ヲ領得シ決シテ杜撰疎漏ノコトナカラシムコト
ヲ要ス

消毒ノ効力ヲ有スルモノ、種類及ヒ効用

第一 火力

凡ソ消毒法ハ烈火ヲ以テ燒燼スルヨリ安全ナルハナシ故ニ傳染病ノ死體及ヒ病毒ニ汚染スルコ
ト甚シクシテ貴重ナラサル品ハ成ルヘク燒却スヘシ

第二 蒸熱附煮沸

傳染病毒ハ攝氏百度以上ノ熱源ニ逢フトキハ枯死スルモノナリ故ニ消毒後使用スヘキ物品ハ成
ルヘシ熱源消毒器中ニ入レテ熱源ノ内部ニ透徹シ易キ様適宜ニ之ヲ排列シ通常衣服ノ類ニ於テ
ハ三十分時間以上臥具ノ類ニ於テハ一時間以上ヲ經ル迄攝氏百度以上ノ熱源ヲ周テシ通シテ消
毒スヘシ

蒸熱消毒器ハ其構造宏大ニシテ寒僻地ニ設クルヲ得サルモノアリト雖トモ要スルニ攝氏百度
以上ノ熱源ヲ以テ消毒スヘキ物品ヲ滴蒸スルヲ得ルカ故ニ簡易ノ裝置ニ依リテ同様ノ目
的ヲ達センコトモ亦難キコアラシ今其第一法ヲ舉ケレハ接合緊密ノ蓋ヲ有セル桶又ハ箱ヲ用ヒ底
面ニ孔ヲ穿テテ蒸氣ヲ導ク處ト爲シ之ヲ釜上ニ裝置シテ蒸氣ヲ通センメ而シテ其蓋ニ一小孔ヲ
穿テ寒暖計ヲ插入シ攝氏百度ヲ表スルニ至ランムヘシ此裝置クル甚ク簡易ニシテ費用ヲ要スル
少ナキカ故ニ如何ナル地方ニモ之ヲ設クルヲ得ヘク而シテ消毒ノ目的ハ十分ニ之ヲ達シ得ルモ
ノトス

又熱湯中ニ煮沸スルモ濕熱消毒法ト其理ヲ同シフス故ニ市町村ニ於テハ煮沸ノ用ニ供スヘキ大
釜ヲ備フルトキハ十分消毒ノ目的ヲ達シ得ヘシ但煮沸ヲ三十分時間以上ヲ持續セザレハ消毒ノ
効全カラストス

第三 藥劑

甲 石炭酸水(二十倍) 結晶石炭酸 九十五分 水 九十分

石炭酸水ハ各種ノ傳染病毒ヲ撲滅スルノ力アリテ効用甚ク廣シト雖モ其價格高貴ナルヲ以テ消
毒費ヲ增多スルノ憂アリ故ニ成ルヘシ他ノ消毒藥ニテ消毒ヲ爲シ難キモノ、例ヘハ石灰乳ヲ用フレハ光
陰ノ處其他主トシテ用フヘキ消毒藥ノ缺乏セル場合ニノミ使用スヘシ

本品ハ結晶石炭酸ヲ以テ製スルヲ通例トス然レトモ場合ニ依リ粗製石炭酸ヲ以テ之ヲ製シ本品
ヲ代用スルモ可ナリ但粗製石炭酸水ハ消毒後斑點ヲ遺スノ虞アルヲ以テ構造精緻ノ家屋貴重ノ
物品等ノ消毒ニハ使用スヘカラス

本品ヲ以テ消毒スルニハ左ノ件々ヲ守ランコトヲ要ス

- 一 本品ヲ以テ衣類等ヲ消毒スルニハ十二時間以上浸漬シ其後淨水ヲ以テ更ニ洗濯スヘシ
 - 二 本品ヲ以テ器具、室内ヲ消毒スルニハ拭淨又ハ撒布シテ後淨水ヲ以テ更ニ拭淨スヘシ
 - 三 本品ヲ以テ手足ヲ消毒スルニハ先ツ本品ヲ以テ洗ヒタル後淨水ヲ以テ洗淨スヘシ
- 本品ヲ製スルニハ先ツ石炭酸十分ニ水大約一分ヲ加ヘ攪拌又ハ振盪シツ、徐々ニ水ヲ注キ全量
ニ百分ニ至ルノ比例ヲ以テスヘシ温湯ヲ用フレハ其溶解殊ニ速カナリ但衣類等ニ使用スルヲ除
キ其他ノ場合ニ於テハ更ニ鹽酸若クハ酒石酸四分ヲ加ヘ使用スルトキハ其効著シトス

乙 昇汞水(千倍) 昇汞一分、鹽酸五分 水 九百九十四分

昇汞水ハ價廉ニシテ消毒ノ効著シキモ猛毒ニシテ無色無臭ナルカ爲メ危險ヲ招キ易キノ虞アリ

故ニ貯藏使用ノ際十分ノ注意ヲ加ヘ又其危険ヲ防カンカ爲メ本品百分ニ硫酸銅一分ヲ加ヘテ藍色ト爲スカ又ハ昇汞ノ効ヲ失ハサル色素ヲ加ヘテ若シ一見識別シ易カラシムルヲ要ス
又本品ハ飲食器、玩具及ヒ飲料水ニ透過スヘキ場所ノ消毒ニ用フヘカラス金屬若シハ糞便中ノ成分ニ逢フトキハ分解又ハ凝結シテ其効力ヲ失フノ虞アルヲ以テ金屬製器、糞便及ヒ吐瀉物ノ消毒ニ用フヘカラス又金屬製器ニ時フヘカラス
本品ヲ以テ手足ヲ消毒シ又ハ消毒後使用スヘキ物品ヲ消毒シタルトキハ必ス淨水ヲ以テ數回洗滌スヘシ

甲乙兩種ノ消毒藥ニハ「劇シキ藥ナリ飲ムヘカラス」ト要記スヘシ

丙 生石灰

石灰乳(十倍)水(生石灰一分)

生石灰及ヒ石灰乳ハ虎列刺、腸室扶私等ノ病毒ヲ消滅スルノ効力アルモノナレハ吐瀉物、瀉下物、下水、芥溜等ノ消毒ニハ總テ之ヲ使用スルヲ良トス

生石灰又ハ石灰乳ヲ以テ吐瀉物、瀉下物ヲ消毒スルニハ之ヲ入レテ能ク攪拌スヘシ

生石灰ハ石灰石ヲ燒キ製シタル塊ニシテ少量ノ水ヲ灌ケハ熱ヲ發シ崩壞スルモノヲ用フヘシ

(蠟灰又ハ通常ノ石灰ハ消毒ノ効ナシ)又石灰乳ヲ製スルニハ一分ノ生石灰ヲ取リ九分ノ水ヲ加ヘ能ク攪拌スヘシ但石灰乳ハ成ルヘク用ニ臨テ之ヲ製シ使用ノ際ハ毎回能ク攪拌スルヲ要ス

丁 格魯兒石灰(サラシヨ)水(即チ鹽化(甘倍)格魯兒石灰五分)

格魯兒石灰水ハ便所、下水、芥溜、床、床下及ヒ土間等ノ消毒ニ用フ

本品ハ用ニ臨テ製スルヲ可トス

戊 硫酸若クハ粗製硫酸全量ノ水ニ溶

硫酸若クハ粗製硫酸ハ石灰乳、石炭酸水等ノ代用品トシテ糞池、下水等ノ消毒ニ用フルヲ得ヘシ但本品ハ強キ腐蝕性ヲ有スルヲ以テ之ヲ取扱フノ際能ク注意スヘシ

本品ヲ以テ糞池ヲ消毒スルニハ糞便ト全量ノ本品ヲ注テ攪拌スヘシ

本品ヲ製スルニハ五十分ノ水ヲ取リ絶ヘス其水ヲ攪拌シツ、注意シテ徐々ニ硫酸若クハ粗製硫酸五十分ヲ注加シ製スヘシ決シテ硫酸中ニ水ヲ注加スヘカラス

第一 患者 消毒ノ方法

傳染病者治癒シタルトキハ先ツ石炭酸水又ハ昇汞水ヲ以テ全身ヲ拭淨シタル後直ニ浴ヲ取ラシムヘシ

第二 死體

傳染病者ノ死體ハ其被服ニ消毒藥ヲ撒布シテ棺内ニ斂ムヘシ但成ルヘシ火葬スルヲ良トス

第三 看病人其他病家ノ家人等

看病人其他病毒ニ汚染シタル病家ノ家人、消毒法施行ニ從事シタル吏員、人夫等ハ手足ヲ石炭酸水又ハ昇汞水ニテ消毒スヘシ但看病人、吏員、人夫等ハ豫メ爪ヲ剪リ其間ニ污垢ナキ様注意シ置クヘシ

第四 患者、死體等運搬器

患者、死體等ヲ運搬シタル擔籠、釣臺、戸板ハ使用ノ都度周テ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ澆クヘシ

第五 便所、芥溜、下水等

虎列刺患者ノ吐瀉物、腸室扶私、赤痢患者ノ瀉下物ノ入りタル便所ノ糞池、大糞池、肥料溜等ニハ

傳染病者アリタル船舶ニハ左ノ消毒法ヲ行フヘシ但共船舶ハ消毒法ヲ行フニ先テ人家及ヒ他ノ船舶ニ隔タリタル所ニ廻航セシムヘシ

一 患者アリタル船舶ハ先ツ室内ノ臥具、戸張、敷物等ヲ取除キ第六項ニ依リテ消毒シ室内各部ヲ掃除シ次ニ昇汞水又ハ石炭酸水ヲ周テク室内ニ撒布シテ後水ヲ以テ叩撃ニ洗淨シ爲シ得ヘキタケ日光ノ射入、空氣ノ流通ヲ良クシ室内ノ全ク乾燥スル迄船客ヲ入ルヘカラス但時宜ニ依リテハ火氣ヲ以テ乾燥セシムヘシ

一 患者アリタル室ノ外ト雖ヒ病汚染ノ疑アル場所及ヒ不潔ノ場所ハ水ヲ以テ洗淨スヘシ

一 患者ノ上リタル便所ハ石灰乳又ハ石炭酸水ヲ撒布シテ後水ヲ以テ十分ニ洗滌スヘシ

一 吐瀉物滲漏ノ虞アルトキハ消毒藥ヲ澱キ船底ニ澱留セル汚水ヲ排除シタル後水ヲ以テ之ヲ洗滌スヘシ

一 船中ノ飲用水ハ新鮮ノ良水ト交換シ其際充分ニ其貯器ヲ洗淨スヘシ

◎訓令第五十二號 明治二十四年三月二十七日 郡市役所

種痘ニ應用スヘキ痘漿ハ極メテ純良ナルモノニアラサレハ或ハ病毒ヲ傳染シ終身多病ノ根源トナル恐レアラハ採漿ノ際ニ於テ最モ健全ナル種痘兒ヲ撰ムハ勿論明治十八年四月乙第八十號達種痘施術心得書ニ依リ疎病性、微毒、皮膚病其他帶患ノ小兒ヨリ採漿セサル様醫業者又ハ牛痘種痘事案ヲ爲ス者ニ於テ深ク注意スヘキ様示達スヘシ

○醫業

◎縣令第七十七號 明治二十二年六月二十八日
鍼灸術按摩營業取締規則左ノ通相定ム

但明治十三年^{十二}石川縣甲二百七十一番布達ハ本令施行ノ日ヨリ適用セズ

鍼灸術按摩營業取締規則

第一條 鍼灸術按摩ハ免許狀ヲ所有スルモノニ非ラサレハ營業スルヲ許サズ

第二條 鍼灸術按摩ヲ開業セントスルモノハ左記ノ願書式ニ因リ修業履歷書ニ同業者二名ノ保證ヲ受ケ其師ノ授業證書ヲ添ヘ所轄郡市役所ヘ願出免許狀ヲ受クヘシ

第三條 醫師治療中ノ患者ニ對シテハ其醫師ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ鍼灸治療ノ術ヲ施スヲ得ス

第四條 藥劑ヲ與フルハ勿論藥方治療法ヲ指示シ又ハ醫師ノ指圖ニ非スシテ水蛭ヲ貼シ其他放血ノ術ヲ施スヲ得ス

第五條 免許狀ヲ貸借又ハ讓與スルヲ許サズ

第六條 營業者ハ左ノ標札ヲ製シ門戸ニ掲クヘシ

幅三寸五步
何 某 木製

第七條 左記ノ場合ニ於テハ三日以内所轄郡市役所ヘ届出免許狀ノ返納書換若クハ再渡ヲ請クヘシ

- 一 廢業死亡
- 二 轉居改氏名

二十三年一月
縣令第一號ヲ
以テ追加ス

三 遺失毀損

第八條 本則第一條第三條第四條第五條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以下ノ拘留又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處セラルヘシ

附 則

從來該業鑑札所持ノ者ハ此際鑑札返納免許狀下附方願出スヘシ

(願書式)

鍼(灸)術(按摩)營業願

富山縣何町大字何村何番地(寄留) 族籍(寄留ハ原籍ヲモ記入スヘシ)

氏 名

生 年 月 日

當縣下何町大字何村何番地ニ於テ鍼(灸)術(按摩)營業仕度候間免許狀御下附被下度修業履歷書相添此段奉願候也

右 氏 名 印

富山縣何町長何某殿

縣令第五十六號 明治二十三年十一月十四日

明治十七年十月甲第百十六號布達醫師取締規則第三條ヲ削除シ以下各條ヲ繰上シ

訓令第百八十四號 明治二十二年六月二十八日 郡 役 所 市 役 所

今般縣令第七十七號ヲ以テ鍼灸術按摩營業取締規則相定メ候ニ付テハ右取扱手續左ノ通相定メ

鍼灸術按摩營業取締規則取扱手續

第一條 鍼灸術按摩營業免許狀ハ別紙雛形之通記入上部へ割印(印ハ郡(市)ヲ捺シ下渡スヘシ)

第二條 鍼灸術按摩營業者改氏名等ニ由リ免許狀書換ノ節ハ免許狀裏面へ其理由及書換タル年月日ヲ朱記シ主任(郡(市)書記)ノ捺印ヲ捺スヘシ

第三條 免許狀面へハ郡市名頭字ヲ冠シ番號ヲ付スヘシ

第四條 免許狀用紙ハ第二部衛生課へ請求スヘシ

(雛形) (△ハ朱ナリ)

縦四寸

何第 號	富山縣 士族 何 某
業 免 許	何 郡 役 所 印
明 治 年 月 日	富山縣 團

面 裏

何 郡 役 所 印

○病院

告示第三十四號 明治二十二年四月五日

明治二十二年四月ヨリ富山櫻木町高岡下川原町全新橋町假驅醫院ヲ廢シ更ニ全月ヨリ富山市大字櫻木町高岡市大字下川原町ニ驅醫院ヲ置キ(富山)驅醫院ト稱ス

告示第四十六號 明治二十二年四月二十九日

明治二十二年五月一日ヨリ縣下高岡市大字高岡新横町へ高岡聖徳院出張所ヲ置ク

○賣藥

●縣令第九十七號 明治二十二年十月四日

明治二十年^{十二}月^{十二}日 縣令第四百四十一號賣藥營業並請賣行商者取締規則第四號書式中左ノ通更正ス

(第四號)書式中右者ノ下制註ヲ(請賣人ナレハ茲ニ何府郡何町大字何村番地賣藥人何某ト記入ス)ト改正

●縣令第六十一號 明治二十三年十二月十九日

明治二十年^{十二}月^{十二}日 縣令第四百四十一號賣藥營業並請賣行商者取締規則第三條第三號書式賣藥請賣約定書ノ下制註ヲ削除ス

●訓令第十七號 明治二十三年二月十四日

郡役所 市役所 町村役場

外國輸入ノ賣藥ヲ販賣セントスルモノハ自己調製ノ賣藥ト全シク明治十年^一月^一日第一號布告賣藥規則第二條及明治二十年^{十二}月^{十二}日 縣令第四百四十一號賣藥營業並請賣行商者取締規則ノ規定ニ據ルヘキハ勿論明治十五年^十月^十日第五十一號布告賣藥印紙稅規則ニ據リ印紙ヲ貼付セシムヘキモノト付心付違ノ者無之様注意スヘシ

○第十一類

○農工商

●縣令第九十四號 明治二十二年九月二十日

明治十八年^十月^十日 甲第七十八號布達漁業採藻取締規則ニ依リ漁業採藻ヲ爲サントスルモノハ該免許願手續ノ外尙明治二十一年^四月^四日 縣令第六十六號漁業組合規則ニ依リ其組合ノ設ケアル區域ニ於テハ組長等總テ組合ヲ代表スルモノ、連署ヲ受ケ出願スヘシ

●縣令 第一百二號 明治二十二年十月十八日
明治十八年^甲第七十八號布達漁業採藻取締規則第五條ニ據リ水產蕃殖ノ爲メ神通川ニ於テ地曳網漁ヲナスコトヲ禁止ス

●縣令 第一百十四號 明治二十二年十二月二十七日

明治十八年^甲第七十八號布達漁業採藻取締規則第十二條ノ次ヘ左ノ一條ヲ追加シ元ノ第十三條ヲ第十四條トナス
第十三條 漁業組合規則ニ據リ漁業組合ヲ設置シタル區域内ニ於テ漁業(水產動植物採捕ヲ併稱ス)ヲナス者ハ其組合ヘ加入スヘシ

●縣令 第二號 明治二十三年一月二十四日

明治二十年^七月^七日 縣令第八十四號中左ノ通改正ス
陸運請負營業取締規則中
第七條 營業ヲ爲サントスル者ハ左ノ事項ニ據リ規程ヲ設ケ營業願ト同時ニ出願認可ヲ受クヘシ

一 依託者ノ運送物受取方
二 荷受人ヘ運送濟ノ貨物渡シ方

三 保險物運送請負方
 四 運送物遭難辨償方
 五 運賃ノ定額 (海上等ノ運賃共)
 六 特別及通常運送物ノ運送方
 七 保險料ノ定額
 八 所屬運送人ニ關スル約束
 前項ノ外營業上必要ノ事項
 八馬繼立營業取締規則中
 第八條 營業ヲ爲サントスルモノハ左ノ事項ニ據リ規程ヲ設ケ營業願ト同時ニ出願認可ヲ受クヘシ

一 急送及通常運送并ニ官用物取扱方
 二 人夫牛馬車駕籠等運搬乗載ノ制限
 三 全上速度及賃銀割増ノ證合
 四 常備人夫ニ關スル約束
 前項ノ外營業上必要ノ事項
 ●縣令第四十四號 明治二十三年九月十二日
 獸醫假免許出願手續左ノ通相定ム
 但明治二十年ハ縣令第四號假開業獸醫免許手續ハ廢止ス
 獸醫假免許出願手續
 第一條 明治二十三年ハ法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ニ據リ獸醫假免許狀ノ下付ヲ出願シ

得ル者ハ開業獸醫ノ乏シキ土地ノ者ニ限ル
 第二條 獸醫假免許狀ヲ得ント欲スル者ハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ縣廳ニ差出スヘシ
 第三條 前條出願者アルトキハ郡市長ハ獸醫欠乏ノ土地ニ限リ乙號書式ニ據リ取調具狀スヘシ
 第四條 假免許獸醫ハ一區域内ニ一人ヲ限ルヘシ
 第五條 假免許獸醫ノ年限ハ滿二ケ年以内トス
 但假免許期限ヲ終ルモ仍ホ獸醫ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニ據リ更ニ獸醫假免許狀ノ下付ヲ出願スルコトヲ得
 第六條 假免許獸醫ハ自己ノ區域外ニ出テ病畜ノ治療ヲ爲スト雖トモ免許區域内ニ牽來ル病畜ハ之ヲ治療スルコトヲ得
 第七條 假免許獸醫ニシテ本免許ヲ得タルトキハ郡市役所ヲ經由シテ假免許ヲ縣廳ヘ返納スヘシ
 第八條 獸醫假免許區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免許ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許年限中ト雖トモ假免許ヲ返納セシムルコトヲ得
 第九條 假免許獸醫ニシテ免許狀ノ有効滿期ニ至ルトキハ郡市役所ヲ經テ該免許狀ヲ縣廳ニ返納スヘシ

(甲號書式) 用紙美濃紙
 獸醫假免許狀下付願

住 所 寄留ナラハ本籍ヲ併記スヘシ
 族 籍 氏 名
 年 月 日

私儀何郡市町村何番地ニ於テ獸醫開業仕度候間獸醫假免狀御下付被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

右

農商務大臣宛

市長町長 氏 名 印

(乙號書式) 獸醫假免狀下付願ニ付調書

住

族 所

氏

名 氏 名

年 月 日

一營業區域 何郡市壹圓又ハ何郡ノ内何村各壹圓

一全區域内地勢ノ峻夷及廣袤

一全区域内牛馬ノ頭數

一營業年限

一開業獸醫ノ居住地ヨリ假免許獸醫ノ區域境界マテ最近ノ距離

●縣令第四十五號 明治二十三年九月十二日

蹄鐵工假免許出願手續左ノ通相定ム

蹄鐵工假免許出願手續

第一條 明治二十三年^{四月}法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ假開業免狀ノ下附ヲ出願シ得ル者ハ蹄鐵工乏シキ地ニ限ルヘシ

第二條 假開業免狀ヲ得ント欲スル者ハ甲號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ郡市役所ヲ經テ縣廳ヘ差出スヘシ

第三條 前條出願者アルトキハ郡市長ハ蹄鐵工欠乏ノ土地ニ限リ區域ヲ定メ其廣袤地勢及馬匹頭數等乙號書式ニ據リ取調具申スヘシ

第四條 假開業蹄鐵工ハ一區域ニ一人ヲ限ルヘシ

第五條 假開業蹄鐵工營業ノ年限ハ滿ニケ年以内トス

但免許期限ヲ經ルモ仍ホ蹄鐵工ニ乏シキ場合ニ於テハ此手續ニ據リ更ニ假開業免狀ノ下附ヲ出願スルコトヲ得

第六條 假開業蹄鐵工ハ免許區域外ニ出テ蹄鐵ヲ裝シ蹄ヲ剪ルヲ得スト雖トモ其免許區域内ニ率來リタル馬匹ノ蹄鐵ヲ裝シ蹄ヲ剪ルヲ得

第七條 假開業蹄鐵工ニシテ本免狀ヲ得タルトキハ郡市役所ヲ經由シテ假開業免狀ヲ縣廳ヘ返納スヘシ

第八條 假開業蹄鐵工免許年限中其區域内ニ於テ本免狀ヲ得タル蹄鐵工ノ開業者アルトキハ該假開業免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

第九條 假開業蹄鐵工ニシテ免狀ノ有効期限ヲ經過シタルトキハ郡市役所ヲ經テ該免狀ヲ縣廳ニ返納スヘシ

(甲號書式) 用紙美濃紙

蹄鐵工假開業免狀下付願

住 所 寄留ナレハ本籍ヲ

族 籍 氏 名

氏 名

蹄鐵工假開業免狀下付願

(甲號書式) 用紙美濃紙

住 所 寄留ナレハ本籍ヲ

族 籍 氏 名

氏 名

私儀何郡市何町何番地ニ於テ踏鐵工開業仕度候間踏鐵工假開業免狀御下附被成下度別紙履歷書相添此段奉願候也

年月日

年月生

市長町長 氏 名 印

農商務大臣宛

(乙號書式) 踏鐵工假開業出願ニ付調査

住 所 族 籍 氏 名 年 月 生

一營業區域 何郡市一圓又ハ何郡ノ内何町何村

一區域内地勢

一全廣袤

一全馬匹頭數

一營業年限

一開業踏鐵工居住地ヨリ假開業踏鐵工營業區域境界マテノ最近距離

●縣令第四十九號 明治二十三年十月三日

明治十八年十月甲第七十八號布達漁業採藻取締規則第一條但書左ノ通改正ス

但民有ノ用水並ニ民有地ニノ海成湖潟成川成ノ水面ニ於テ漁業ヲ爲ス者モ亦本則ニ據ルヘシ

●告示第四十四號 明治二十二年四月二十七日

諸營業ニ係ル鑑札下附全書換及ヒ証票檢印刷等ハ其聽許スヘキ分ニ限り自今該鑑札又ハ証票ヲ下附シ別ニ指令セシ

●告示第六十號 明治二十二年五月二十四日

新潟縣漁業取締規則左之通發布候旨全縣ヨリ通知セリ

但該規則第七條ニ違犯シタルモノハ全縣違警罪第二條第一項ニ依リ處分セラル

縣令甲第四十八號

漁業取締規則左之通相定ム

但明治十五年九月甲第九十八號布達水面拜借漁業願ノ件廢止ス

明治二十二年五月四日

新潟縣知事篠崎五郎

漁業取締規則

第一條 當縣管内ニ於テ漁業ヲ營ムモノハ管内外人ノ別ヲ問ハス此規則ヲ遵守スヘシ

第二條 此規則ニ於テ漁業ト稱スルモノハ海川湖沼池等ニ生産又ハ養殖セシ動植物ヲ採捕シ營業スルモノヲ總稱ス

第三條 新クニ漁業ヲ營ントスル者又ハ漁業者ニシテ他ノ漁場ヘ加入入會及ヒ漁具増加ノモノハ出願許可ヲ受クヘシ

第四條 漁業ニ要スル水面ハ適宜區畫ヲ設ケ其沿岸地ノ人民ヘ貸付スヘシ

但沿岸町村ニ於テ漁業出願者ナキモハ他町村ノモノヘ貸付スルコトアルヘシ

第五條 從來漁業上ノ慣行又ハ沿岸地先ノ關係又ハ漁場發見其他漁具漁法ノ改良等ニ就キ功勞アルモノハ其漁場ヘ加入入會漁業ヲ許スコトアルヘシ

第六條 已許可ヲ得タル漁業場及漁具ノ使用權ハ賣買讓與貸借スルヲ許サズ
 但本規則第十二條ノ漁業場ハ出願許可ヲ得テ讓與貸借スルヲ得
 第七條 漁業者ハ濫リニ漁場區域外ニ出漁シ漁業ノ妨害ヲ爲スヘカラス
 第八條 漁業組合準則ニ據リ組合ヲ設置セシ場所ニ於テ漁業ヲ營ントスルモノハ其組合ヘ加入ス
 第九條 水族繁殖及治水ノ其他公益ノ利害ニ關シ妨害アル場所ニ於テハ已許ノ漁業ヲ停止又ハ禁
 止スルコトアルヘシ
 第十條 魚介藻苔類ノ養殖場及種川ノ上下流並ニ其魚類ノ通路ニ關係セル近海ニ於テ全季節ニ漁
 業ヲ營ントスルモノハ漁業ノ目的如何ヲ問ハズ其養殖者ト協議ヲ遂ケ適宜制限ヲ設クヘシ
 第十一條 一區域内ノ漁業場ニシテ漁期ヲ全クシ漁具漁法ヲ異ニセル入會漁業者ハ其關係漁業者
 ト協議ヲ遂ケ適宜制限ヲ設クヘシ
 但季節ヲ異ニセル漁業者モ自然關係ヲ有スル場合ニ於テハ本條ニ準スヘシ
 第十二條 築漁類暨立漁類其他水中ニ杭柵ヲ以テ特ニ漁場ヲ構造スルモノハ滿五ヶ年以内養殖漁
 業ハ滿十五ヶ年以内ニ期限ヲ定メ營業スヘシ
 第十三條 漁業地ノ町村ニ於テハ漁業者ノ公擧ヲ以テ一名若クハ二名ノ漁業總代ヲ設ケ届出ヘシ
 第十四條 轉業其他ノ事故ニ依リ全ク漁業ヲ廢セルモノ又ハ漁業上ノ都合ニ依リ漁場區域内ノ一
 部分或ハ漁具中ノ一種類ヲ廢止セルモノハ十五日以内ニ届出ヘシ
 第十五條 漁業ニ關セル願届書ニハ其漁場ニ關係セル町村ノ漁業物代漁業者ナキ地ハ町村總代並ニ漁業組合
 組長ノ連署副印ヲ受クヘシ
 第十六條 本規則第三條第六條ニ違反シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上

壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

漁業出願手續

第一條 新クニ水面漁業場ヲ設ケ漁業ヲ營ントスルモノハ一號書式ニ依リ漁業ノ目的漁場ノ區域
 漁具ノ種類員數等ヲ列記シタル願書ニ漁場圖及漁具圖明細書等ヲ添ヘ關係町村長ノ與書印ヲ以
 テ所轄郡市役所ヲ經由シ縣知事ヘ出願スヘシ
 但養殖漁業ハ養殖方法書ヲ添付スヘシ
 第二條 已許ノ漁業場ヘ加入入會シ新ニ漁業ヲ營ントスルモノ又ハ從來ノ漁業者ニシテ異種ノ漁
 具ヲ以テ他ノ漁業場ヘ加入入會シ新ニ漁業ヲ營ントスル者等ハ二號書式及ヒ單ニ異種ノ漁具ヲ增加セン
 トスル者ハ三號書式ニ依リ已許ノ年月日ヲ記セル漁場ノ名稱及ヒ使用スヘキ漁具ノ種類員數ヲ
 列記シタル願書ニ漁具圖明細書等ヲ添ヘ關係町村長ノ與書印ヲ以テ所轄郡市役所ヲ經由シ縣知
 事ヘ出願スヘシ
 第三條 從來ノ漁業者ニシテ全種ノ漁具ヲ以テ他ノ漁業場ヘ加入入會漁業セントスル者ハ二號書
 式及ヒ單ニ全種ノ漁具ヲ增加セントスル者ハ三號書式ニ依リ已許ノ年月日並ニ加入スヘキ漁場
 ノ名稱又ハ增加スヘキ漁具ノ員數等ヲ記載シタル願書ニ關係町村長ノ與書印ヲ以テ所轄郡市長
 へ出願スヘシ
 第四條 廢業及ヒ漁場返納又ハ漁具數ヲ減シタル者ハ四號書式ニ依リ已許ノ年月日并ニ漁場ノ名
 稱漁具ノ種類員數等ヲ記セル届書ニ所轄町村長ノ與書印ヲ以テ所轄郡市長ニ届出ヘシ
 但本規則第十二條ノ廢業者並ニ漁場ヲ返納セルモノハ所轄郡市役所ヲ經由シ縣知事ヘ届出ヘ
 シ
 (書式圖式略ス)

●告示第六十一號

明治二十二年五月二十九日

明治二十一年四月縣令第六十六號漁業組合規則來ル六月十日ヨリ實施ス

●告示第百十二號 明治二十二年十一月八日

鳴根縣ニ於テ漁業取締規則左ノ通相定メ候旨通知越セリ

漁業取締規則

第一條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ縣内外人ヲ問ハズ組合外ノモノ從來ノ慣行特約ニ依リ漁業(採介採藻トモ)スルトキハ其地組合規約ニ遵フヘシ

第二條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其地組合規約ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第三條 第一條第二條ヲ犯シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

●告示第百二十二號 明治二十二年十二月十三日

獸醫開業免狀全假開業免狀下附願書及開業試驗願書ハ自今副本差出スニ及ハス

●告示第百二十三號 明治二十二年十二月十三日

靜岡縣ニ於テ漁業取締規則左ノ通相定候旨通知越セリ

縣令第八十九號

漁業取締規則左ノ通之ヲ定ム

明治二十二年十一月十六日

靜岡縣知事時任爲基

漁業取締規則

第一條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ縣内外人ヲ問ハズ組合外ノモノ從來ノ慣行ニ依リ漁業(採介採藻トモ)スルトキハ其地組合規約ニ遵フヘシ

第二條 漁業組合設置ノ漁場ニ於テ遊樂若クハ自用ノ爲メ魚介藻ヲ採取スルモノハ其地組合規約

ニ定メタル制限禁止ノ事項ヲ遵守スヘシ

第三條 第一條第二條ヲ犯シタル者ハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五

錢以下ノ科料ニ處ス

●告示第百七號 明治二十三年一月三十一日

鳥獸獵免狀ヲ受ケ其獵期中族籍姓名ヲ變換シ又ハ住居ヲ移轉シタルトキハ所轄郡市役所ニ届出ヘ

シ且他管ヨリ寄留セル者ニシテ本管ニ復歸シ又ハ管内外ヲ問ハズ轉轄若クハ寄留シテ引續キ銃獵

スル者ハ甲乙兩地ノ所轄管廳ニ届出而シテ該免狀ハ獵期後二十日以内ニ當初受取タル管廳ニ返納

スヘシ

●告示第九十八號 明治二十三年九月二十六日

明治二十一年一月告示第三號水産試驗場規則中左ノ通加除ス

第二條 水産試驗場ノ下總テ削除シ「ノ開設期日ハ其時々告示スヘシ」ノ十四字ヲ加フ

全條但書削除ス

第三條中右生徒ノ下「十五名宛」ヲ削リ「二十名」ノ三字ヲ加フ

全條婦負郡ノ次「磯波郡三名」其次「富士市一名」全「高岡市一名」ノ文字ヲ加フ

第七條中郡ノ下「市」ノ字ヲ加ヘ年齡ヲ「下」割注ヲ削除ス

●訓令第百三十八號 明治二十三年四月二十七日 郡役所

諸營業ニ係ル鑑札下附願書等へ指令ヲ附セサルニ付今回第四十四號ヲ以テ告示候條其應ニ於テモ

全條取扱フヘシ

●訓令第百四號 明治二十二年七月十九日 郡役所 市役所

度量衡並ニ船舶(西洋形船)積量検査及ヒ銃獵免狀下附ノ都度左ニ記載ノ要目ヲ郡市所在收稅部出張所

二十三年三月
訓令第三十三
號ヲ以テ但書
追加

へ通報スヘシ

但日本形五十石以上ノ船舶ノ解破若シハ水火盜難等ニ罹リ船免狀返納ノ場合モ本文ニヨリ通報スヘシ

一度量衡ハ其製作人ノ族籍姓名並品目種類別個數及ヒ通價額

一日本形五十石以上ノ船舶ハ其船名所有者及ヒ納税代人族籍姓名定警場積量

一銃獵ハ免狀ヲ與ヘタル月日及ヒ免許者族籍姓名

●訓令第二百三十七號 明治二十二年十月二十五日 郡役所 市役所

三等郵便局長ヨリ職獵免狀下附願出候節ハ免狀下附スヘシ

●訓令第二百五十五號 明治二十二年十二月二十七日 郡役所 市役所 町村役場

薩哈連島沿岸ノ海産業ニ關スル出稼年限ハ本年ニ於テ終期ノ處本年十一月十二日第九百十三號

官報ヲ以テ外務省ヨリ告示相成候通リ露國地方官廳ノ假規則ニ依リ尙ホ來ル二十三年ヨリ向フ五

箇年間更ラニ出稼漁業ヲ得ルコトニ相成候就テハ在薩我領事館ヲ經更ラニ露國其筋ノ許可ヲ得ヘ

キ筈ニ相成居候處是迄稼キ來リ候漁民中來春ノ漁業準備ニ躊躇スルモノ有之モ難計候間自然伺出

候向モ有之候ハ、右ノ事實ヲ示スヘシ

●訓令第九十八號 明治二十三年六月二十日 郡役所 市役所

明治十九年三月 郡乙第四十四號達ヲ廢止ス

●訓令第四百四十二號 明治二十三年十一月七日 郡役所 市役所 町村役場

勸業上ニ係ル集談會ヲ開設シタルトキハ其景況左記ノ事項ニ準シ取調届出ヘシ

一開會ノ場所并目的

一問題

一參會人員

一談話ノ要領

右ノ外必要ノ事項